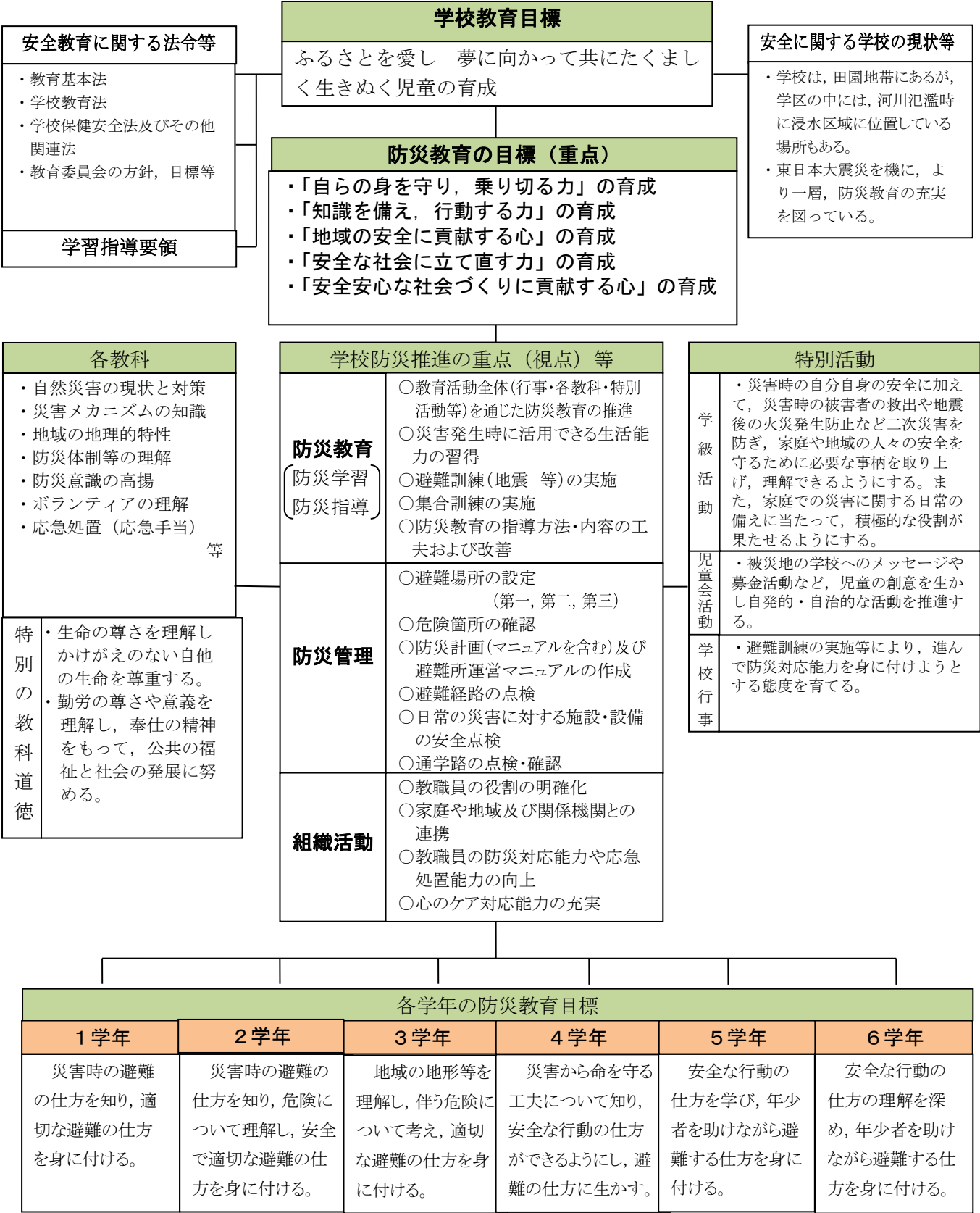


I 学校安全教育全体計画

学校の現状等 ○ 本学区は大崎市の北部に位置し、近くに江合川が流れている。 ○ 共働きの父母が多い。学校教育に寄せる思いが深い。 ○ 素直で、協力し合う子どもが多い。	学校教育目標 ふるさとを愛し夢に向かって共にたくましく生きぬく児童の育成		日本国憲法 教育関係法規 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学校保健安全法及びその他関連法 ・教育委員会の方針 ・目標等				
	安全教育の目標 (身に付けさせたい力と心) ○自らの身を守り乗り切る力 ○知識を蓄え行動する力 ○地域の安全に貢献する心 ○安全な社会に立て直す力 ○安全安心な社会づくりに貢献する心						
安全教育及び安全指導の方針等							
災害安全（防災教育） ○ 火災・地震・水害発生時における危険について理解し、命を守るため安全に避難する方法を身に付ける。 ○ 災害発生時における避難所の役割を理解し、ボランティア活動等に参加する。 ○ 地域と連携した防災訓練を実施する。		交通安全 ○ 交通安全に対する知識・理解を深め、道路の安全な歩き方と自転車の安全な乗り方についての意識を高めるための指導を重点的に行う。 ○ 体験活動を取り入れた交通安全教室を実施する。		生活安全 ○ 学校内での危険や危険箇所を理解し、危険予測能力を高める。 ○ 学校・家庭・地域で起こる犯罪や危険について理解し、犯罪に巻き込まれない行動がとれるようにする。 ○ 不審者に対する適切な対処方法や行動ができるようにするため避難訓練を実施する。			
家庭・地域・関係機関との連携 大崎市，市教委，区長，民生委員 消防署，警察，PTA		教職員の校内研修 学校安全計画及び危機管理マニュアルの理解と役割分担，心肺蘇生法，不審者対応訓練					
各教科・行事等 ○ 体育，理科，図工，家庭，学級活動における安全指導 ○ 避難訓練における避難行動及び避難経路等の確認 ○ 登下校時における避難行動							
1 年		2 年		3 年	4 年	5 年	6 年
安全な生活の習慣化を図る。		自主的に，安全な生活ができる態度と能力を養う。		自己の安全の確保と，下級生の安全についても配慮できる能力を養う。			
安全管理（対人，対物）							
対人管理 ○ 遊具の使用や授業時間以外の学校施設の利用について指導する。 ○ 登下校時の歩き方や自転車の乗り方について指導する。 ○ 教職員が連携して児童の心身の健康状態を把握する。				対物管理 ○ 校舎内外の安全点検 ○ 消防設備点検 ○ 理科室薬品点検 ○ 校内巡視点検 ○ 戸締り確認			

Ⅱ 災害安全全体計画

大崎市立宮沢小学校



I-1 年間計画

【学校防災年間計画】

月	防災管理	組織活動	防 災 教 育（防災学習・防災指導）		
	関 連 行 事		教 科	道 徳	特別活動その他
4	<ul style="list-style-type: none"> ・安全のきまりの確認(設定) ・安全点検年間計画確認 ・防災計画についての確認 ・避難経路の確認 ・通学路危険箇所点検 ・避難訓練(地震) 		<ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化 (5年・理) 		<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の確認 ・緊急連絡カード及び避難確認カード記入 (個人マニュアル) ・災害時の安全な避難と備え
5	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・避難訓練(不審者対応) 		<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止 (5年・保体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・きを つけて(1年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難時の約束について(地震・火災)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・避難訓練(引き渡し) ・心肺蘇生法研修会 		<ul style="list-style-type: none"> ・けんこうな生活 (3年・保体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・命がないとはじまらん(5年) ・土石流の中で救われた命(6年) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検(通学路を含む) ・地域防犯シンポジウム, 地区懇談会 (関係機関との連携) 			<ul style="list-style-type: none"> ・たんじょう日(2年) ・命の重さはみな同じ(6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方 ・危険箇所マップづくり
8	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・防災に関する研修 				
9	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・防災教室 (避難訓練事前指導) ・休憩時避難訓練(地震) ・防火設備, 用具の点検 				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 		<ul style="list-style-type: none"> ・地球に生きる(6年・理) 		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 			<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたいのち(3年) ・私のボランティア体験(5年) 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・避難所として開放する場所の点検 				<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの過ごし方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 		<ul style="list-style-type: none"> ・人と環境(6年・理) 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検 ・休憩時避難訓練(地震) ・学校安全点検の評価と反省 		<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害を防ぐ (5年・社) ・持続可能な社会に生きる (6年・家) 		<ul style="list-style-type: none"> ・震災を教訓とした災害への備え ・春休みの過ごし方

I-2 教職員の動員体制

(1) 情報連絡体制（0号配備）※校長・教頭自宅待機

配備発令基準	(1) 市内で震度4が観測されたとき (2) 市内に次の警報の1つ以上が発表されたとき ①大雨警報 ②暴風雪警報 ③大雪警報 ④洪水警報 ⑤暴風警報 (3) 危機管理監が必要と認めたとき		
本部設置	●本部設置なし（情報収集，連絡活動）		
本部長（学校長等）		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・配備につく。 ・情報収集を指示する。 （気象情報，警報等） (1)の場合は施設被害の有無を確認し，市教委へ報告する。	・校長，教頭，自宅待機。 ・必要に応じて対応する。	・情報を確認する。 ・通常の活動を行う。	・必要に応じて対応する。

(2) 警戒本部体制（1号配備）※原則としていずれかの管理職動員・職員自宅待機

配備発令基準	(1) 市域に震度5弱が観測されたとき (2) 台風による災害が予想されるとき (3) 市域に上欄の警報の1つ以上が発表され，広範囲にわたる災害が予想されるとき，又は局地的な災害が発生したとき (4) 災害の状況により副市長が必要と認めたとき		
本部設置	●本部設置なし（情報収集，連絡活動）		
本部長（学校長等）		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・直ちに配備につく。 ・ 地震 ：児童の安全確認，施設破損状況を確認させる。 ・ その他災害 ：気象情報等を確認し，下校を含めた安全対策を検討する。 ・教育委員会への報告	・原則としていずれかの管理職が直ちに学校での配備につく。（困難な場合は，校長の指定した者） ・災害の情報，状況を確認し，必要に応じた対応を指示する。（児童の安全確認，施設の破損状況の確認，登校の判断等） ・教育委員会への報告	・あらかじめ定められた教職員は配備につく。 ・配備職員以外は，業務の補助をする。	・配備職員以外は，自宅等で本部(学校)の連絡を待つ。

(3) 特別警戒本部体制（2号配備）※原則として全職員動員

配備発令基準	(1) 市内で震度5強が観測されたとき (2) 市内数地域に災害が発生したとき、又は災害が拡大するおそれが予想されるとき (3) 氾濫警戒情報が発令されたとき、又は氾濫危険水位（水防法第13条で規定する特別警戒水位）を超過したとき (4) 災害の状況により副市長が必要と認めたとき		
本部設置	●校内災害対策本部（安全確保、避難誘導、情報収集、連絡活動、応急対策）		
本部長（学校長等）		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・直ちに配備につく。 ・ 地震 ：迅速に避難誘導させる。 ・ その他災害 ：気象、交通情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。（授業打ち切り、部活動中止等） ・避難者の対応について ・教育委員会への報告	・直ちに学校での配備につく。 ・災害の情報、状況を確認し、必要に応じた対応を指示する。（生徒の安否確認、施設の破損状況の確認、登校の判断等） ・教育委員会への報告	・直ちに配備につく。 ・ 地震 ：迅速に避難誘導させる。 ・ その他災害 ：気象、交通情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。（授業打ち切り、部活動中止等） ・避難者の対応について	・直ちに学校での配備につく。 ・災害の情報、状況を確認し、必要に応じた対応を指示する。（生徒の安否確認、施設の破損状況の確認、登校の判断等）

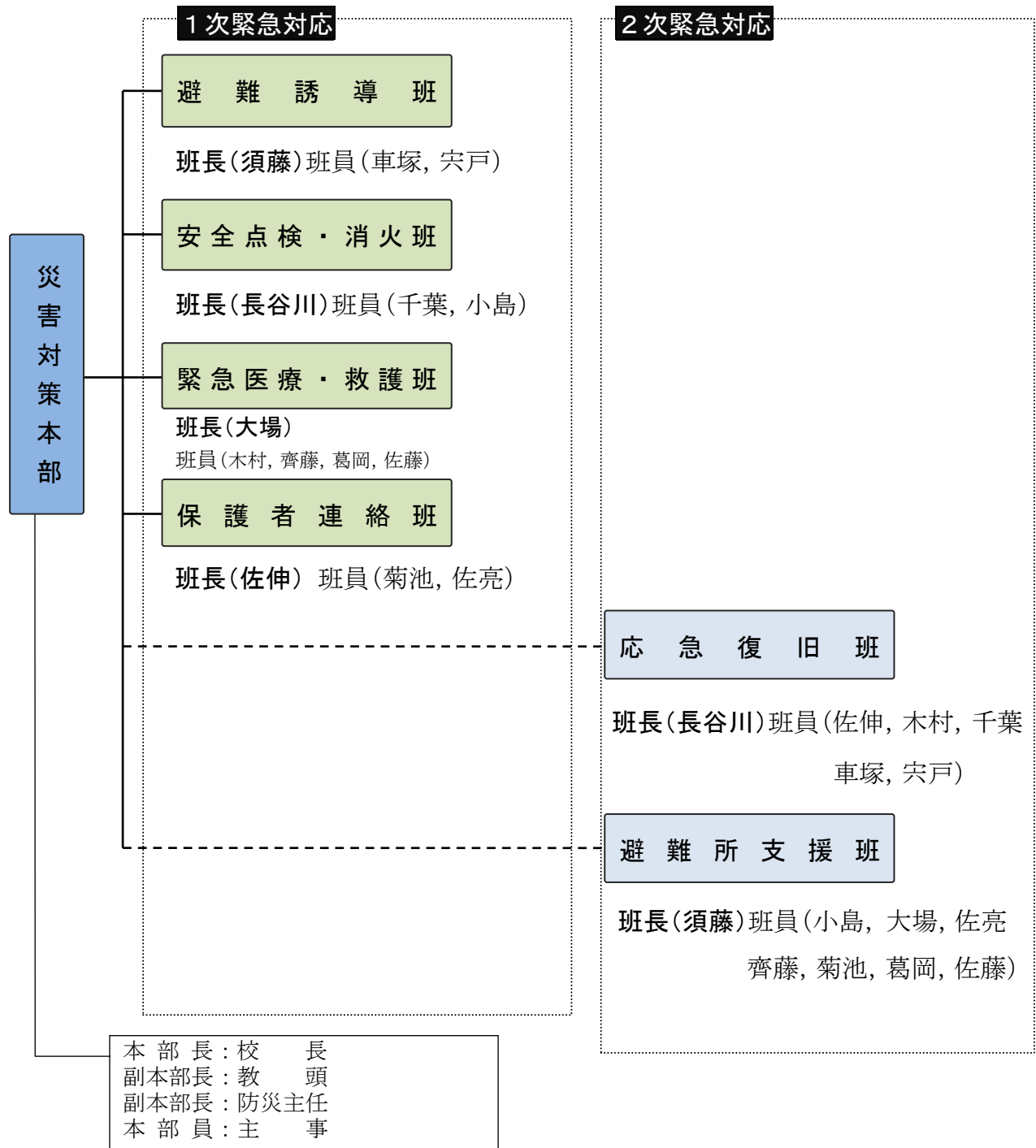
(4) 災害対策本部体制（3号配備） * 原則として全職員動員（自動発令）

配備発令基準	(1) 市内に震度6弱以上を記録したとき (2) 市域内に激甚な災害が発生したとき (3) 市内全域に災害の発生するおそれのある場合又は全域でなくとも被害が特に甚大と予想される場合など災害の状況により市長が必要と認めたとき		
本部設置	●校内災害対策本部（安全確保、避難誘導、情報収集、連絡活動、応急対策）		
本部長（学校長等）		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・直ちに配備につく。 ・ 地震 ：迅速に避難誘導させる。 ・ その他災害 ：気象、交通情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。 ・避難者の対応について ・防災担当課、教育委員会へ報告する。	・直ちに学校での配備につく。 ・災害の情報、状況を確認し、必要に応じた対応を指示する。（生徒の安否確認、施設の破損状況の確認、登校の判断、避難所開設等） ・防災担当課、教育委員会へ報告する。	・直ちに配備につく。 ・ 地震 ：迅速に避難誘導させる。 ・ その他災害 ：気象、交通情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。	・直ちに学校での配備につく。 ・災害の情報、状況を確認し、必要に応じた対応を指示する。（生徒の安否確認、施設の破損状況の確認、登校の判断、避難所開設等） ・業務員は避難所の開設、運営に協力する。

I-3 校内災害対策本部組織と業務内容

震災の規模や被害状況等を踏まえ、校内災害対策本部（以下「本部」）を設置し、迅速かつ組織的に災害対応に当たる。

（１）基本編成図



※本部長 ↔ 防災主任 ↔ 班長 ↔ 班員の連絡体制で迅速に業務にあたる。

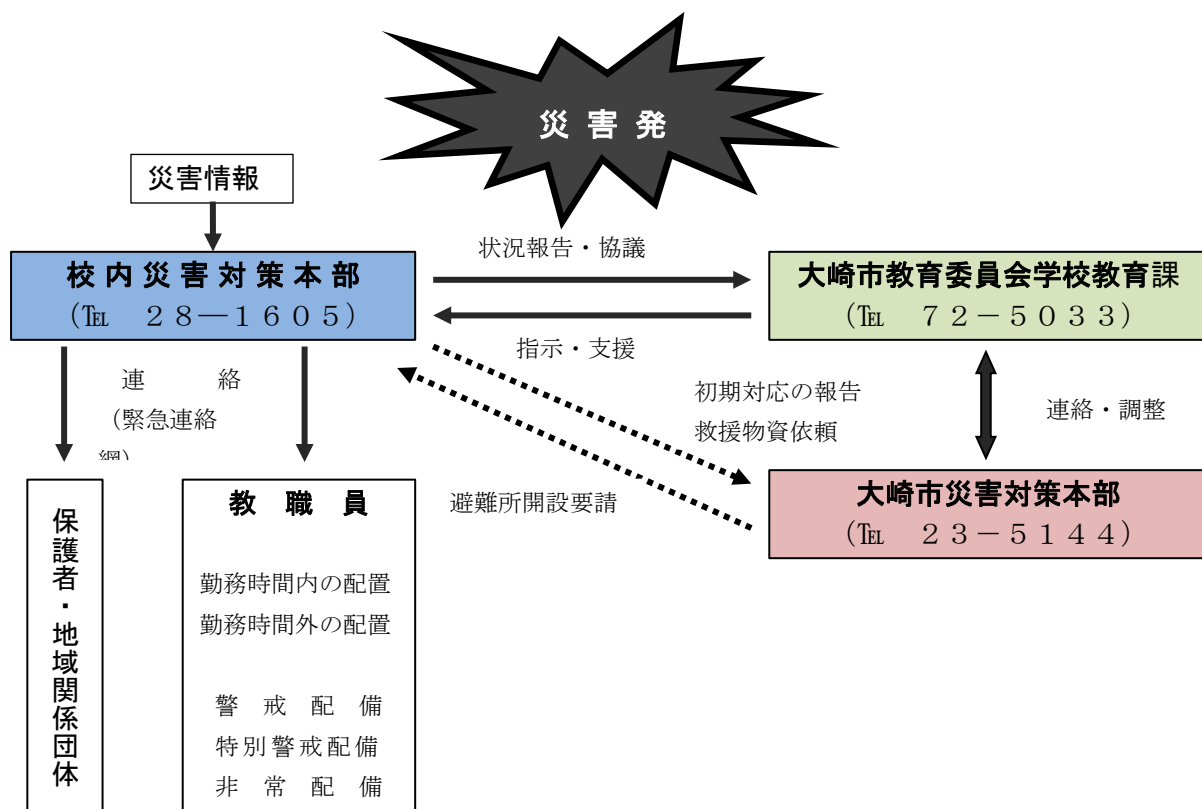
※災害の状況に応じて他班の支援体制を考える。（1次緊急対応を優先にする）

※本部長代理順位 ①教頭 ②防災主任 ③教務主任

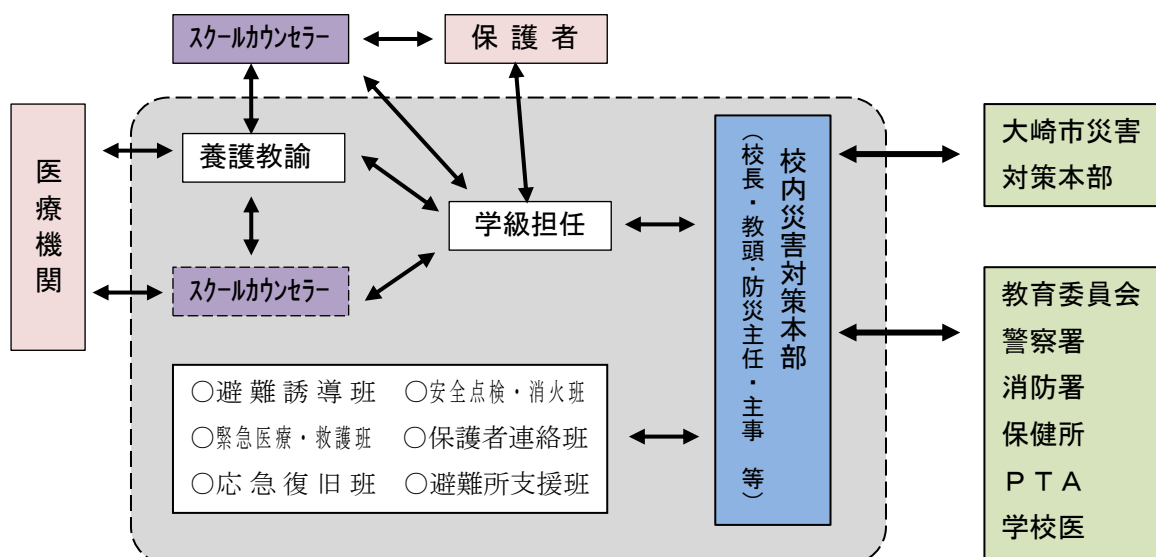
(2) 各班の業務内容

班 名	業 務 内 容	主な必要物品
本 部	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送等による連絡や指示 ○応急（緊急）対応の決定 ○各班との連絡調整 ○教育委員会，市災害対策本部，P T A等との連絡調整・報告 ○情報収集（気象，災害，交通情報等） ○非常持ち出し品の搬出 ○報道機関との連絡・対応 	拡声器，メガホン ホイッスル 無線機（トランシーバー） ラジオ 懐中電灯 乾電池（各種） 点呼表（学年毎） 在校児童確認表
避 難 誘 導 班	<ul style="list-style-type: none"> ○揺れがおさまった直後の安否確認 ○負傷状況の把握と本部への報告 ○安全な避難経路を確認しての避難誘導 ○行方不明の児童生徒等，教職員を本部に報告 	拡声器，メガホン ホイッスル 強力ライト
安全点検・消火班	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況の確認 ○校舎，その他施設の被害程度の調査と本部への報告 ○火災が発生した場合の初期消火 ○初期消火の必要がない場合は，他班へ1名ずつ分かれて支援する。 	消火器 防煙マスク 安全点検表
救急医療・救護班	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急医薬品，担架の持ち出し（AED含む） ○負傷者の救出，救命 ○負傷者の応急手当 ○医療機関への搬送・連絡 ○救護所の設営 （保健室が使えない状況を想定） ○負傷者，危険箇所等の通報 ○「心のケア」の実施 	医薬品 担架 毛布 簡易テント，シート バール，スコップ 等
保 護 者 連 絡 班	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉メール配信，電話連絡網での対応 ○地域防災無線，地域コミュニティを活用しての連絡 ○引き渡し対応の事前の取り決め ○引き渡し場所の指定 ○児童生徒等の引き渡し作業（カード利用） 	在校児童確認表 引き渡しカード
応 急 復 旧 班	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況の把握 ○ライフライン被害状況の把握と本部への報告 ○危険箇所の応急処置 ○「立入禁止」「使用禁止」等の表示 	トラロープ 各種表示 各種工具
避 難 所 支 援 班	<ul style="list-style-type: none"> ○市防災担当課と連携しての支援 （指定避難所の場合） （指定は受けていないが要請を受けた場合） ○避難所開設がない場合は，他班を支援する。 	救援物資については市災害担当課で準備する。 放送機材，カラーコーン，各種表示，腕章，ベスト

I-4 情報連絡体制図



学校組織（校内災害対策本部）



1 地震発生時の対応と避難誘導

(1) 在校時の発生

☆教職員の行動

★児童への対応

発
地
震

宮城県沖を震源とし、各地で震度5強の地震を想定した場合

教 職 員

☆校内放送により一斉放送を行う。(指定職員)

☆停電時：指定職員(複数)は、ハンドマイク、メガホン等で避難行動を指示する。

教室にいる人は、すぐに机の下にもぐりなさい。机の脚をしっかり持ちなさい。教室以外にいる人は、落下物に注意しなさい。

★休み時間等で、児童から離れている場合は、揺れがおさまった後、直ちに児童がいる場所に移動し、指導する。

☆火気の使用中であれば、揺れがおさまってからあわてずに火の始末をする。

★落下物、転倒物、ガラスの飛散等から身を守らせる。

★壁や窓から離れ、壁、窓に背を向け不要させる。

★頭部を保護するため、机の下にもぐらせ、机の脚をしっかり持たせる。

★安心させるような声を掛け続ける。

☆指定職員(安全点検・消火班)は、揺れがおさまりしだい、出入り口の開放、負傷者の確認、火災が発生した場合は初期消火を行う。

☆指定職員(避難誘導班)は、避難経路の安全確認をする。

☆指定職員(安全点検・消火班)は、ガスの元栓の閉鎖、火の元の確認をする。

☆指定職員は、化学薬品や石油類の危険物の状態を確認する。

★指定職員(救急医療班)は、手当の必要な負傷者に応急手当を行う。

児童等

○「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ避難する。

【教 室】机の下にもぐり、落下物等から身を守る。

【廊 下】壁、窓から離れ、蛍光灯やガラス等からの落下物から身を守る。

【体育館】安全な場所に移動し、天板、天井灯の落下に注意する。

【校庭】落下物、倒壊の危険性のあるものから離れ、中央部分に避難する。

安
全
確
保
・
安
全
点
検

情
報
収
集

本部長(校長)

情報収集とともに、安全な場所に避難の指示をする。

☆指定職員(本部)は、携帯テレビ(ワセグ)、ラジオ、インターネット、防災行政無線等により、震源地、震度、津波等に関する最新の情報収集をする。

☆悪天候(強風雨、低温等)や地割れ、土砂崩れ、液状化現象などで、避難場所や避難経路が危険な場合は、最も安全な場所を決定する。

避
難
の
指
示

本部長(校長)

本部長の指示のもと、第一避難場所に避難の指示をする。

☆校内放送により一斉放送を行う。(指定職員)

地震はおさまりましたが、余震の心配があります。先生の指示に従って、慌てず、校庭へ避難してください。

☆悪天候(強風雨、低温等)や、地割れ、土砂崩れ、液状化現象などで、避難場所や避難経路が危険な場合は、最も安全な場所を指示する。

避難誘導

◆第1避難場所（校庭）第2避難場所（ホール）第3避難場所（体育館）

教職員

- ★落下物，足下に注意し，頭部を保護させる。
- ★避難前に人員を確認し，逃げ遅れることがないように指示する。
- ★自力で避難できない児童は，指定職員（避難誘導班）が介助して避難させる。
- ★児童の不安を緩和するように，落ち着いて声掛けする。
- ☆指定職員（本部）は，非常持出袋を搬出して避難する。
- ☆指定職員（本部）は，テレビ，ラジオ等により情報収集する。
- ☆保護者，地域住民が避難してきた場合は，一緒に避難する。

児童等

- 「押さない，走らない，しゃべらない，もどらない」の約束に従い行動する。

安否確認

教職員

- ★指定職員（本部）の指示で，クラス毎に整列させる。
- ☆クラス毎に人数と安否を確認し，本部に報告する。
- 担任 → 本部長（校長）
- ★指定職員（救急医療班）は，負傷者の確認とけが人に対して応急手当を行う。
- ☆指定職員（救急医療班）は，必要に応じて医療機関との連携を図る。

設置
災害本部

本部長（校長）・教職員

- ☆本部長，教頭，防災主任の指示により，各業務に当たる。
- ☆必要に応じて避難住民の対応に当たる。

被害状況の確認

- ☆指定職員（応急復旧班）は，施設，通学路等の被害状況を確認し，本部に報告する。
- ☆危険箇所があった場合は，立入禁止措置を行う。（張り紙，ロープ等）
- ☆指定職員（応急復旧班）は，危険箇所の応急措置を行う。
- ★第1避難場所が危険な場合は，第2避難場所に誘導する。
- ★校舎等の安全を確認した後，児童を校舎内に移動させる。

事後の対応措置

本部長（校長）

- ☆本部で，被害状況を総合的に判断し，授業再開，下校時の判断，（集団下校），保護者への引き渡し，学校での保護等のいずれかの措置について，指定職員により，保護者へ連絡する。
- ☆対応措置について，所管教育委員会に報告する。（協議する）

教職員

- ☆指定職員は，保護者へ連絡をする。（一斉メール配信，電話，緊急連絡網等）
- 電話，メールが使用できない場合を想定し，連絡方法について事前に文書等で取り決めておく。

発生地震

児童の安全確保を最優先とする。

安全確保・情報収集**教職員**

- ★安全な場所に避難させる。(出勤途中、帰宅途中も含め)
- ★学校にいる児童には、校内放送等により、落下物、転倒物、ガラスの飛散から身を守らせる。(指定職員)
- 避難誘導等については、在校時の対応を基本とする。
- ☆指定職員は、震源地、震度、津波等に関する最新の情報収集に努める。
- ★安否確認、状況によって登下校途中の児童の保護活動を行う。

児童等

- 建物からの落下物、ブロック塀の倒壊等を逃れるために、頭部を保護し、安全な場所で姿勢を低くする。「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所
- 危険な場所から速やかに遠ざかるようにする。(がけ崩れが起きそうな場所や川岸、橋の上やガス漏れ箇所など)

被災状況・各種情報を総合的に判断し、学校災害対策本部を設置する。

本部長(校長)・教職員

- ☆本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務に当たる。
- ★児童の安否確認を最優先にする。
- ☆指定職員(本部)は、震源地、震度、津波等に関する情報を収集する。

設置災害本部**教職員**

- ★学校に避難した児童の安否確認は、在校時の対応を基本とする。
- ★指定職員は、児童の所在を確認する。(登校している、していない)
- ☆保護者へ連絡をする。(一斉メール配信、電話、緊急連絡網等)
- ★必要に応じて、通学路、避難場所を回り、安否を確認する。
- ☆指定職員(応急復旧班)は、施設、通学路等の被害状況を確認し、本部に報告する。
- ☆危険箇所があった場合は、立入禁止措置を行う。(張り紙、ロープ等)
- ☆指定職員(応急復旧班)は、危険箇所の応措置を行う。

安否確認**被害状況の確認****本部長(校長)**

- ☆児童全員の安否確認後、授業実施、休校措置と、登校している児童の下校方法、保護者への引き渡し、学校での保護措置等について、保護者へ連絡させる。
- ☆対応措置について、所管教育委員会に報告する。(協議する)

教職員

- ☆指定職員は、保護者へ連絡をする。(一斉メール配信、電話、緊急連絡網等)
- 電話、メールが使用できない場合を想定し、連絡方法について事前に文書等で対応を取り決めておく。

事後の対応措置

発生地震

児童の安全確保を最優先とする。

安全確保・情報収集

教職員

- ★落下物、転倒物、ガラスの飛散から身を守らせる。(指定職員)
- ☆指定職員は、震源地、震度、津波等に関する最新の情報収集に努める。
- ★班別行動(学習)中に地震が発生した場合は、指定職員は安否の確認と、状況によって保護活動を行う。
- ※津波被害が心配される沿岸部では、ラジオや防災行政無線などで情報を常に収集し、避難、待機等を判断する。
- ※強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は津波警報などの発表を待たずに避難する。

児童等

- 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ避難する。
- 教職員の指示をよく聞き、慌てないで行動する。
- 頭部を保護し、安全な場所で姿勢を低くする。
- 交通機関(公共交通機関も含む)を利用している場合は、乗務員の指示、放送等による指示、誘導に従うようにする。

安否確認

教職員

- ★指定職員は、児童の所在を確認する。
- ★必要に応じて、活動場所を巡回し、安否を確認する。

児童等

- 指定された緊急連絡先(教員の携帯電話等)へ連絡する。(班の代表者)

事後の対応措置

教職員

- ☆指定職員は被害の状況、児童、教職員の安否状況等を学校に連絡しながら対応する。
(復路の状況把握指示、帰校方法、帰校時刻の指示)
- ★全員の安否確認後、活動継続の可否を判断し、児童に伝える。
- ☆指定職員は、必要に応じて保護者へ連絡をする。(一斉メール配信、電話、緊急連絡網等)
- ☆対応措置について、所管教育委員会に報告する。(協議する)

(4) 在宅時の発生（休日・夜間等）

☆教職員の行動 ★児童への対応

発生
地震

管理職はもとより、教職員は宮城県教育委員会災害対策基本要領警戒配備の発令基準、各市町村教育委員会災害対策配備基準等に基づいて、配備につく。

設置
災害本部

本部長(校長)・教職員

☆本部長，教頭，防災主任の指示により，各業務に当たる。

☆必要に応じて避難住民の対応に当たる。

安
否
確
認

教職員

☆教職員の安否を確認する。

★児童の安否を確認する。(電話連絡，緊急連絡網，一斉配信メール等)

☆クラス毎に人数と安否を確認し，本部に報告する。

担任 → 教頭 → 本部長(校長)

児童等

○必要に応じて，学校に連絡する。(学校で安否確認ができなかったり，けがをしたりした等)

被害状況
の確認

☆指定職員(応急復旧班)は，施設，通学路等の被害状況を確認し，本部に報告する。

☆危険箇所があった場合は，立入禁止措置を行う。(張り紙，ロープ等)

☆指定職員(応急復旧班)は，危険箇所の応急措置を行う。

事後の
対応措置

本部長(校長)

☆必要に応じて，児童全員の安否確認を指示する。

☆対応措置について，所管教育委員会に報告する。(協議する)

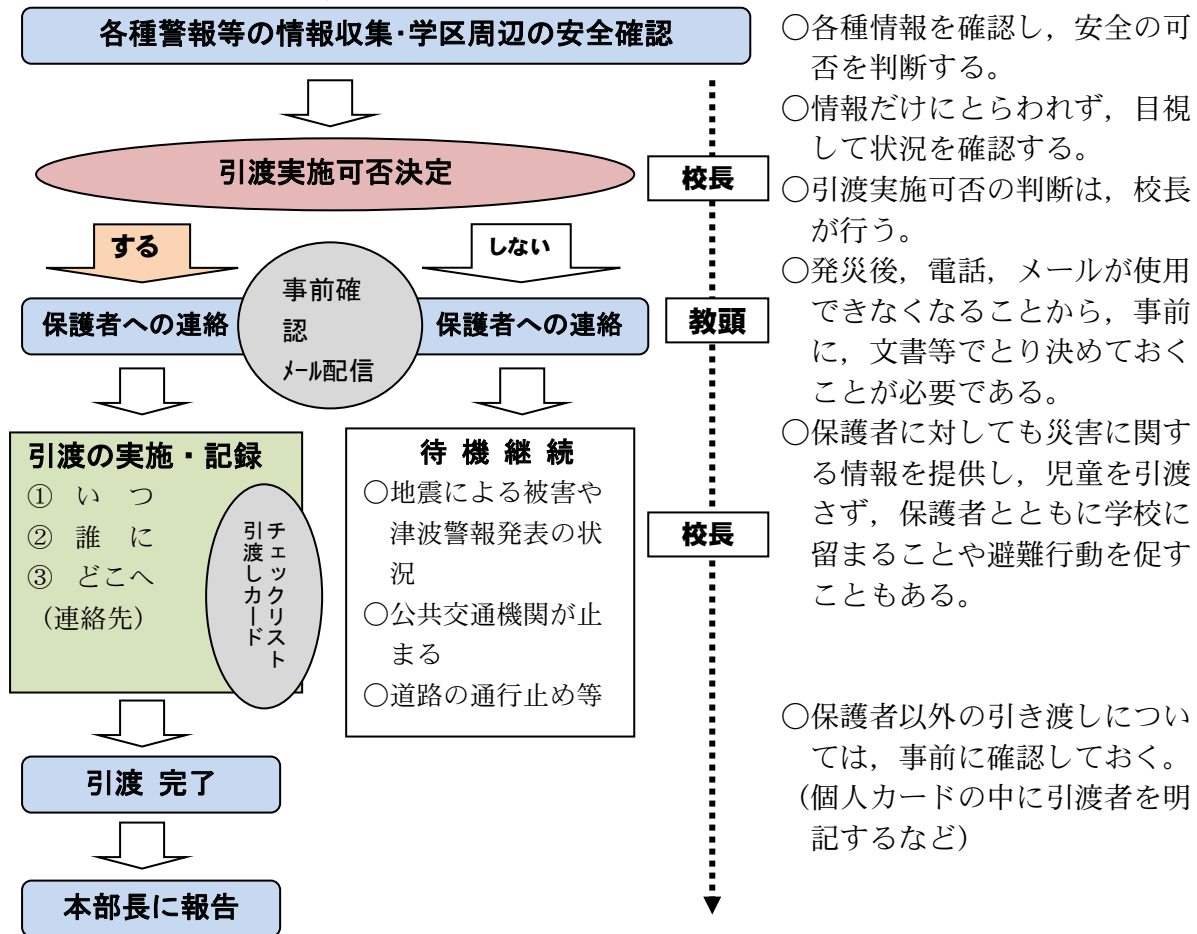
教職員

☆指定職員は，保護者へ連絡をする。(一斉メール配信，電話，緊急連絡網等)

電話，メールが使用できない場合を想定し，連絡方法について事前に文書等で，災害発生時の対応について取り決めておく。

2 保護者への引渡（地震を想定）

（１）校内で引渡をする場合の対応



※引渡の判断基準

児童の安全確保を最優先とし，学校周辺の交通事情，地域・地形を考慮し，予想される被害状況等を十分検討する。

引き渡しのルール		
学校を含む地域の震度	震度5強以上	<ul style="list-style-type: none"> 〇保護者が来るまで学校に待機させる。 〇時間がかかっても保護者が来るまでは，児童を学校で保護しておく。
	震度5弱以下	<ul style="list-style-type: none"> 〇原則として下校させる。 〇事前に保護者から届けがあったり，連絡があったりした場合は，学校で待機させ，保護者への引渡を待つ。

引渡の具体例（体育館の場合）

- ☐ 保護者へ児童の引渡し開始（地区担当→保護者）
 - ・地区担当は「緊急連絡カード」の一覧表を準備し、児童の引渡方法を確認して、引渡を行う。
 - ・引渡す手順（引き受け者が地区表示の場に来たら）

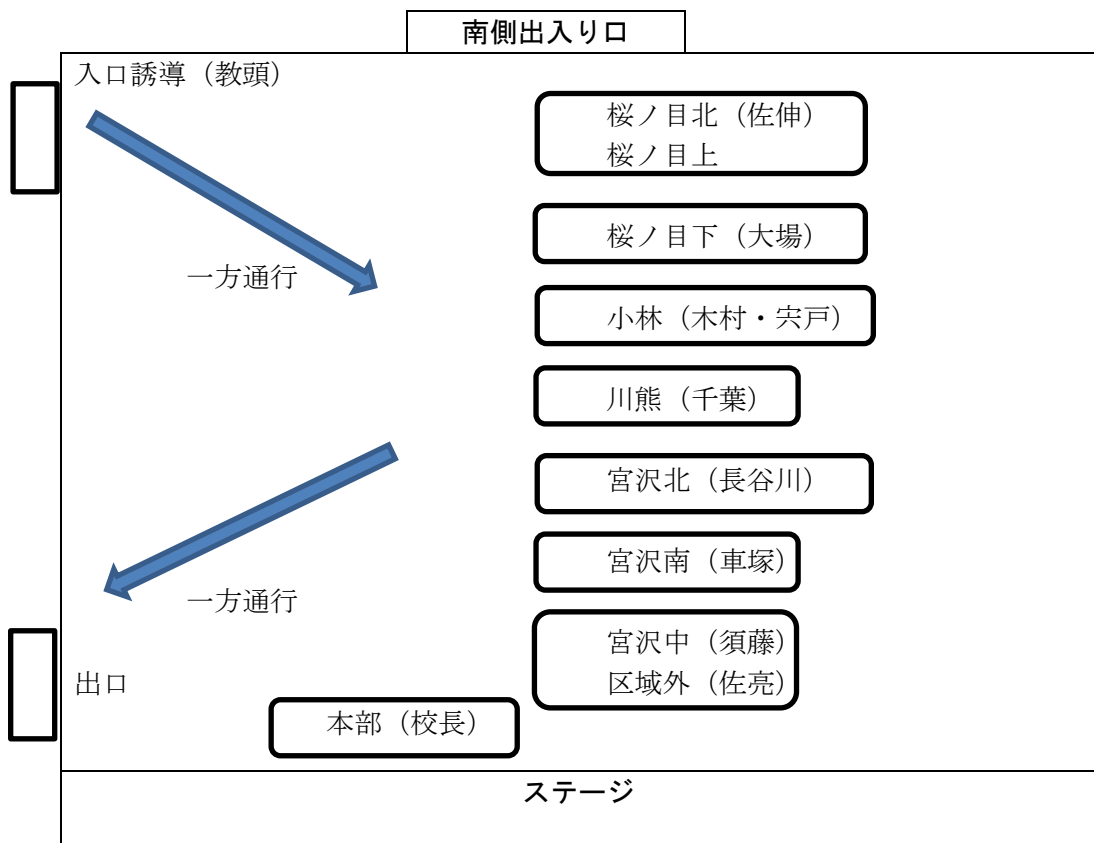
- ① 「確認させていただきます。どなたですか」
「〇年〇〇の母・父・祖父母です」
*一覧表でチェックする。
- ② 児童を呼ぶ。
「〇〇さん、前に来てください。〇〇さんのお母さんで間違いないですか」
- ③ 行き先を確認する。
「これからどこに行かれますか」
「北中に行きます」「自宅に帰ります」⇒記録する。
- ④ 引渡す。*引渡した時刻を記録する。

- ☐ 引渡終了
 - ・引渡し名簿を再確認する。

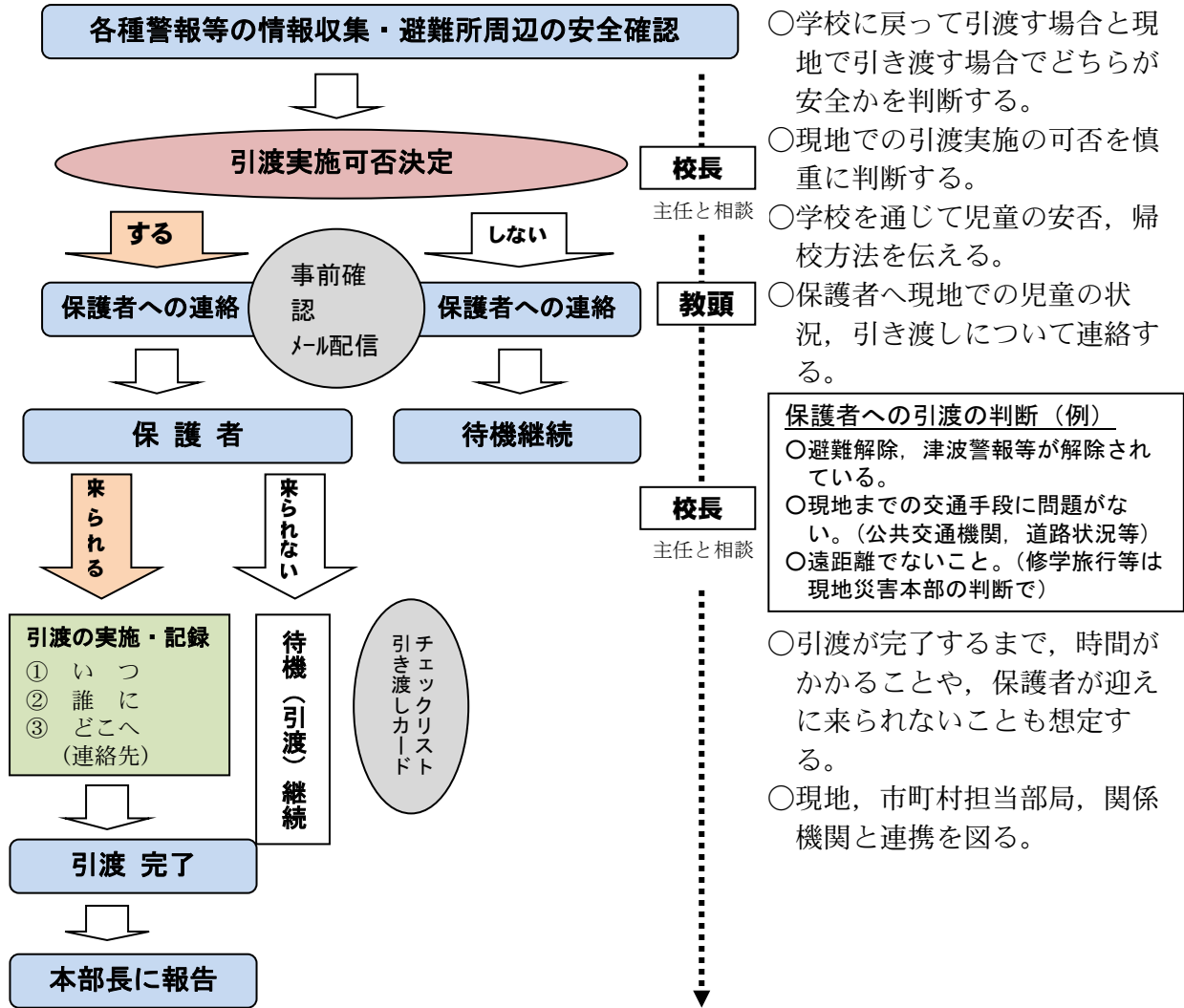
・留意点

- (1) 保護者（引き受け者）の駐車場は公民館とし、体育館へは徒歩で迎えに来てもらう。
- (2) 保護者（引き受け者）は外靴を持参し、混雑を避けるため一方通行にする。

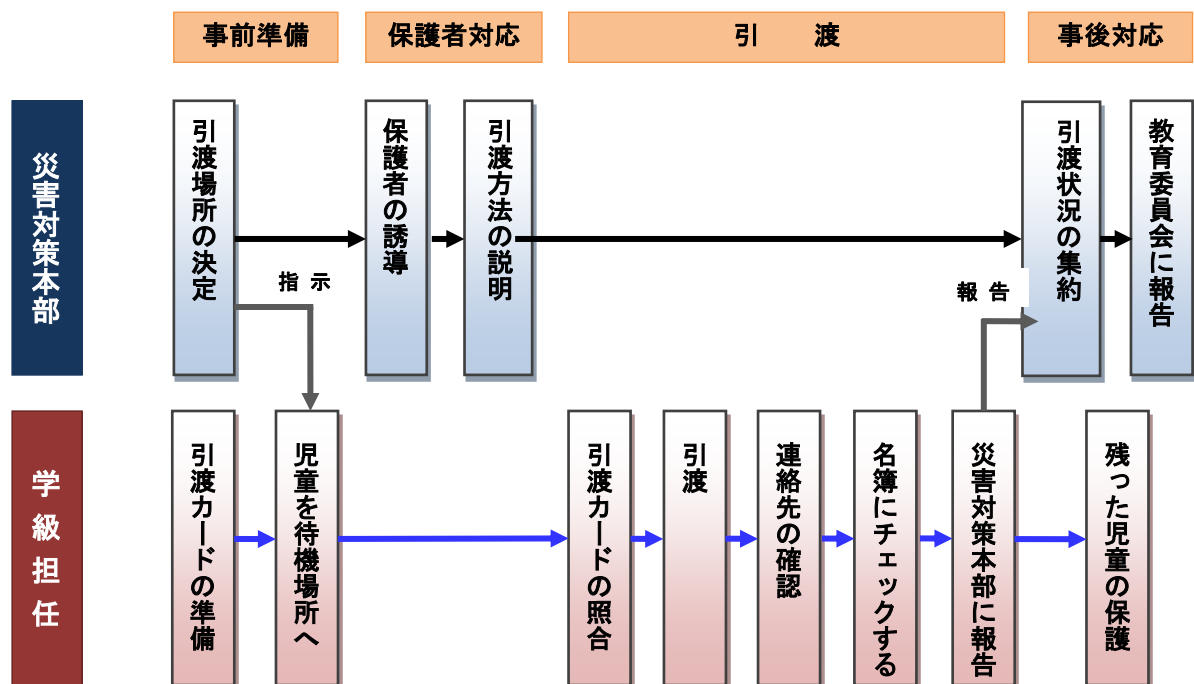
・引渡見取り図（体育館）



(2) 校外で引渡をする場合の対応

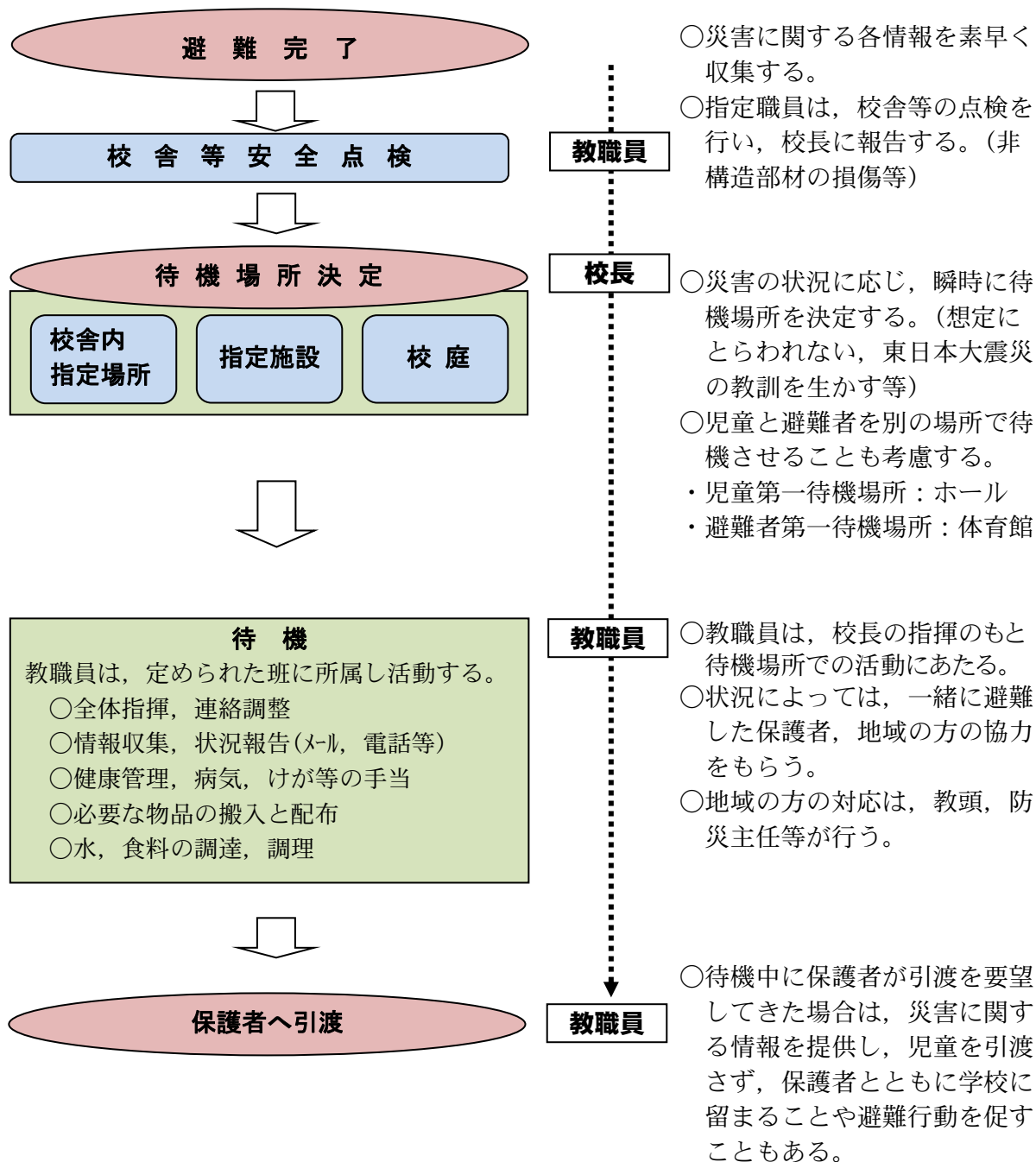


校内における引渡の手順

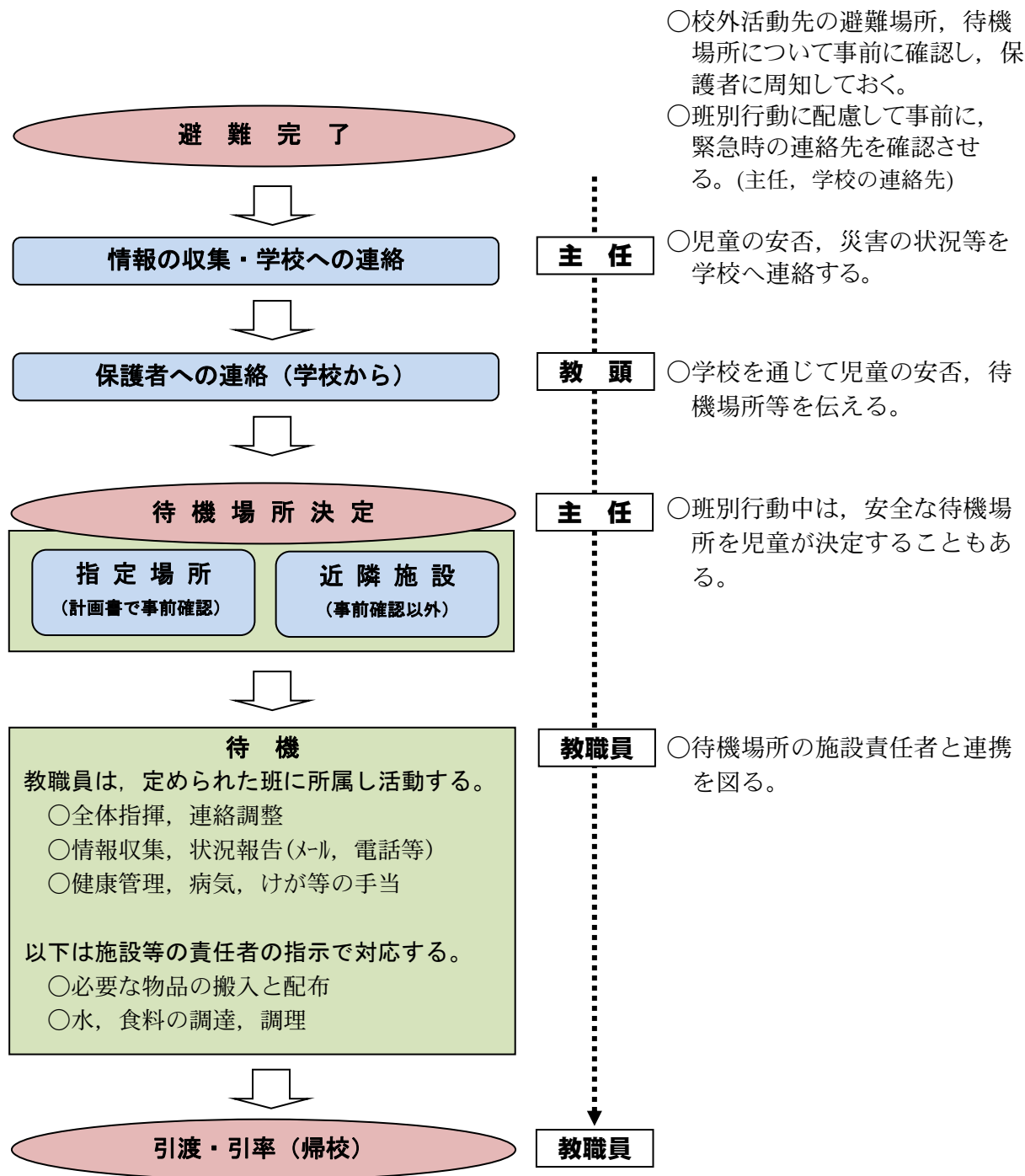


3 待 機（宿泊） ※帰宅困難者対応含む

（１）校内（避難場所）で待機させる場合の対応

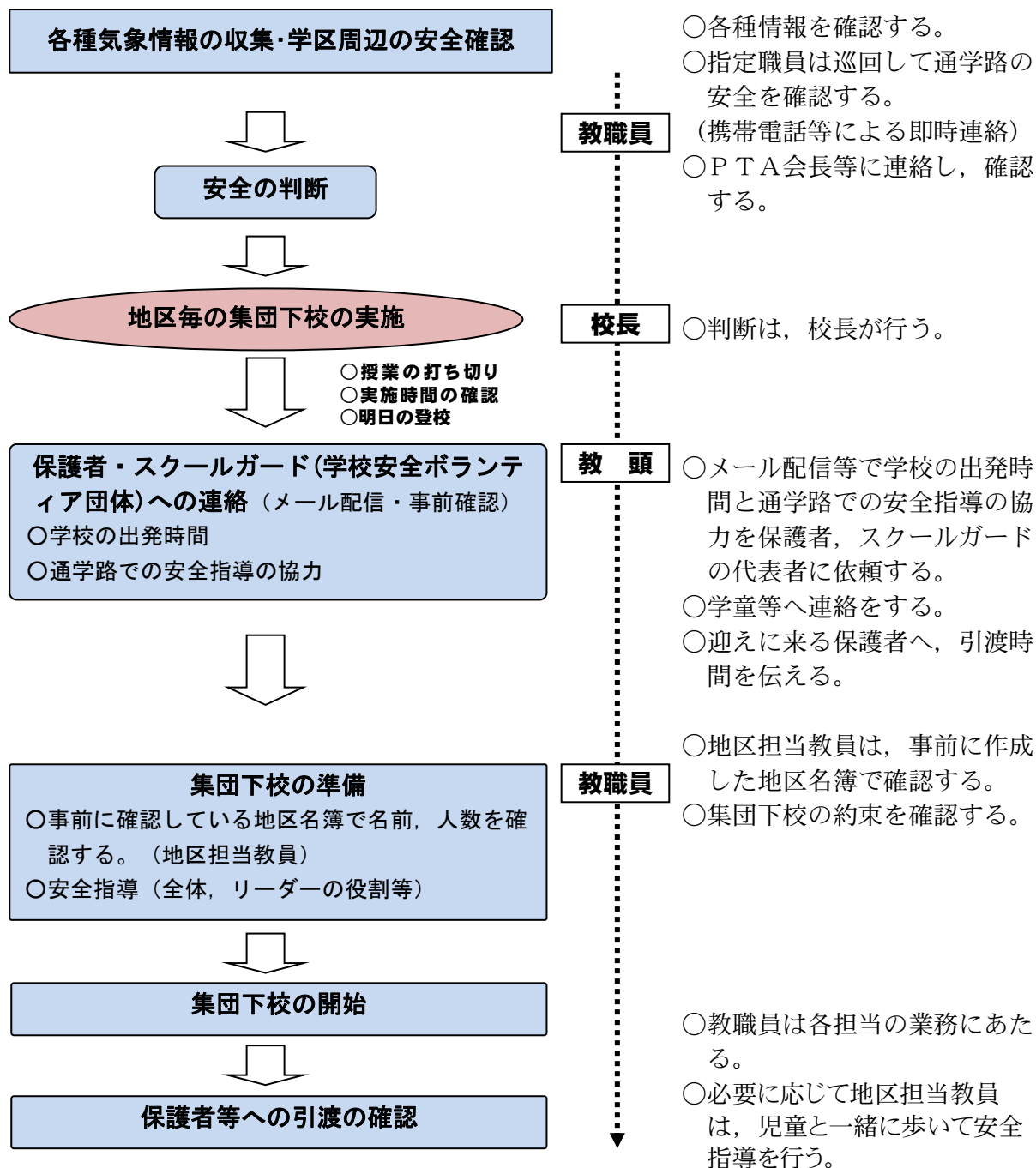


(2) 校外で待機させる場合の対応 (校外活動中)



4 集団下校

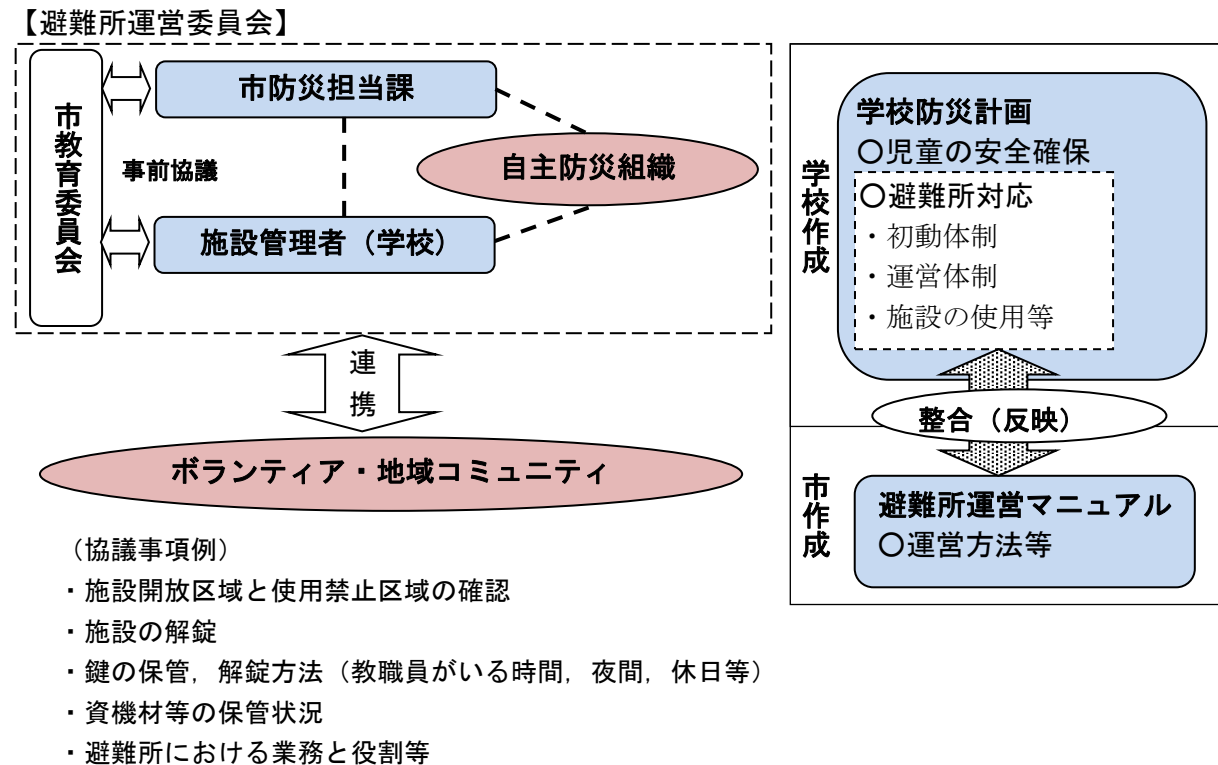
(1) 集団下校の対応



5 避難所の設置・運営にかかる協力（学校が避難所となる際の対応）

（１）運営協力体制等について

- ① 大崎市防災担当課、関係する自主防災組織等と避難者の受け入れや避難場所・避難所の運営方法について、定期的な協議、運営マニュアルの内容の検討、訓練等を通じて、共通理解を図る。（必要に応じて市教育委員が加わる）〔学校施設管理者（校長）、教頭、防災主任、避難所支援班長〕



- ② 避難所対応に教職員が混乱し，児童の安全確保に支障を来すことがないように，学校防災計画上の避難所にかかる対応方針等については，あらかじめ市が作成する「避難所運営に関するマニュアル」等との整合性を十分に図ることが必要である。
- ③ 児童が避難所運営上の一部の作業等に携わるようにすることは，将来の地域防災の一翼を担う人材育成を行う観点からも，また，避難者が積極的に避難所運営に携わる意識を高める上でも効果があるため，可能な範囲で役割を担いよう配慮することが適当である。

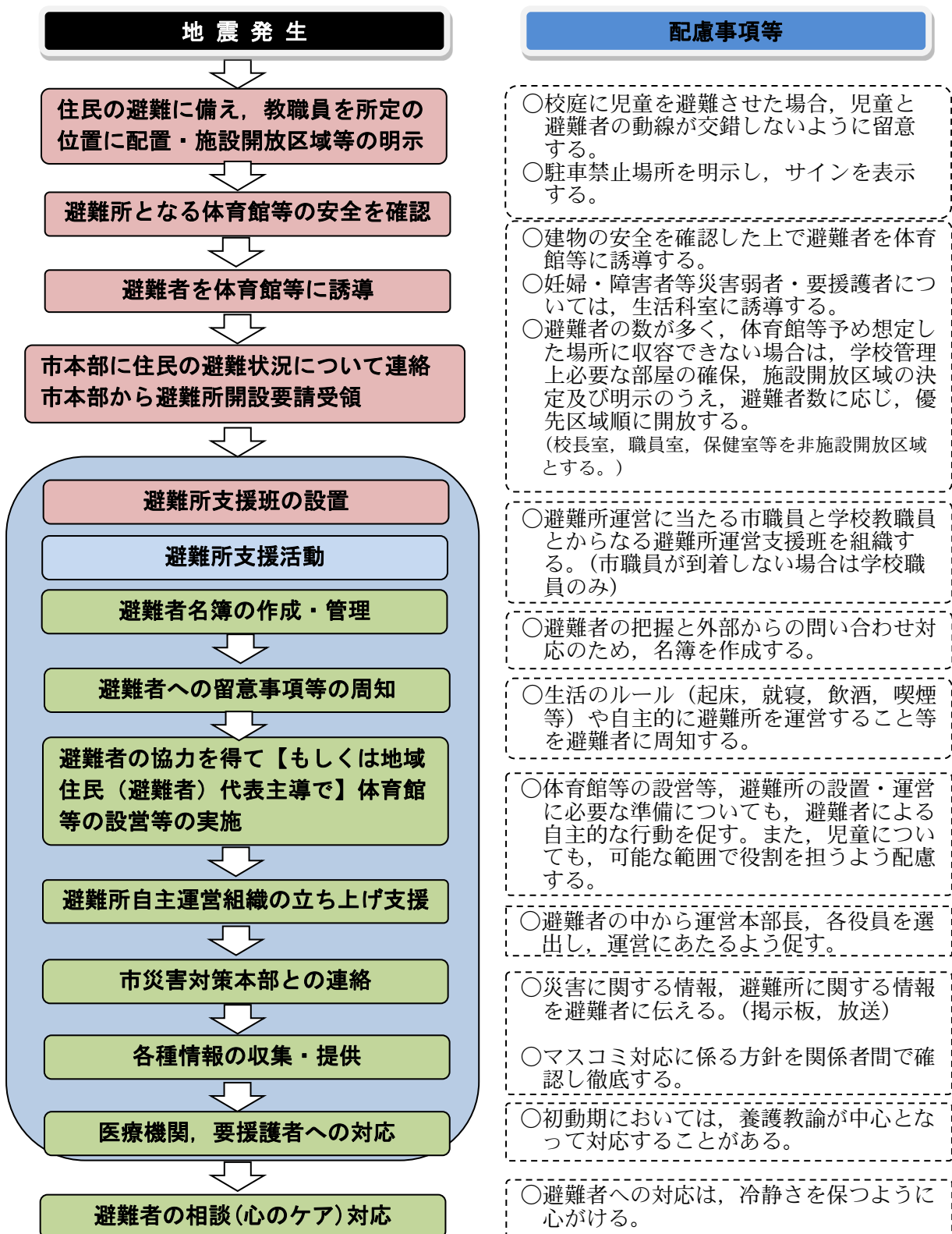
小学生が関われる可能な範囲

- ・食事のお世話
- ・ごみの仕分け（分別）
- ・避難所内の清掃
- ・支援物資の運搬，整理，配布 等

キーワード：互いに助け合う心の和＝「共助」

(2) 学校の避難所設置・運営にかかる協力（発災初期段階の例）

※ 学校に教職員等がいる時間帯において地震が発生し、市からの避難所開設要請の前に住民が避難してきた場合を想定



※1 上記の他、学校に教職員等がいない時間帯に災害が発生した場合の対応についても市、地域住民と協議の上、予め調整しておく必要がある。

※2 上記に示した内容の詳細については、予め市が作成する避難所運営マニュアル等に定め、地域住民等に事前に理解を得る必要がある。

6 学校再開に向けた対応

(1) 教育再開への取組

児童、教職員の被害状況の確認

- 児童の安否と所在場所の確認
- 教職員の安否確認

○教職員は、できるだけ速やかに、家庭訪問、避難所先を訪問し、児童の被害状況を確認する。(避難先、連絡方法、健康状態等)

家庭・保護者の被災状況の確認

- 保護者の安否と所在場所の確認

○地域、PTAと連携を図りながら、家庭・保護者の安否確認、所在場所、学区内の被災状況を確認する。

学校施設・設備等の点検

- 建物の構造部材、副構造部材の点検と補修
- ライフライン(水道、電気、ガス等)の復旧状況
- 危険の箇所の立入禁止の明示と危険物・危険薬品等の点検
- 仮設校舎の建設要請
- 校舎内外の清掃・消毒
- 移転先での学校再開の準備

○災害の程度によって、校舎や施設設備等の使用再開について、専門家(応急危険度判定士等)の点検を受けて決定する。
○ライフラインの状況を点検し、関係機関に協力を依頼する。
○理科室等の危険薬品、灯油保管場所等を確認する。
○校舎内へ浸水があった場合は、清掃、消毒を実施する。

通学方法の確認と通学路の安全点検

- 危険箇所の点検と補修箇所の報告
- 公共交通機関の運行状況の確認

○通学路の安全を確認し、危険箇所について関係機関へ連絡する。
○公共交通機関の再開の目途を確認する。

教育環境の整備

- 授業形態の工夫と教職員の配置
- 教科書、学用品等の損失状況の確認と発注
- 支援物資の取りまとめ(教育委員会との連携)
- 文部科学省ホームページの活用(支援物資)
- 心のケア(スクールカウンセラーとの連携)
- マスコミ、外部ボランティア団体等の対応

○当面の授業形態(午前授業、短縮授業等)と学習プログラムを検討する。
○教科書、学用品の滅失棄損状況を確認し、不足教科書等の確保に努める。
○スクールカウンセラーを派遣するなど心のケア対策を講じる。
○マスコミ対応、ボランティア団体の受け入れの対応は、校長及び教頭が行う。

避難所との共存

- 避難所運営組織と協議
- 立入制限区域の明示

○学校施設が長期的に避難所として使用されることがあるため、立入制限区域を明示することや、お互いの生活のルールを確認する。

給食業務の再開

- 施設、設備の安全点検
- 所管教育委員会、食材委託業者との調整

○給食業務が早期に再開できるように関係機関と連携を図る。
(簡易給食の手配、栄養のバランス等)

火災発生時の対応と避難誘導

(1) 在校時の発生

☆教職員の行動 ★児童への対応

発火 生災

校舎内が出火元となり、延焼の危険性があることを想定した場合

初期 通報 火

教職員

☆出火元を確認し、出火を近くの教職員に知らせ、火の勢い等の状況を管理職に報告する。

☆消防署への通報(119番)を行う。(指定職員)

☆初期消火を行う。(指定職員・消火班)

避難 の 指 示

☆校内放送により一斉放送を行う。(指定職員)

☆停電時：指定職員(複数)は、ハンドマイク、メガホン等で避難行動を指示する。

ただ今、〇〇より火災が発生しました。近くの先生の言うことを聞いて、煙を吸い込まないようにして、〇〇に遠い出口から校庭に避難しなさい

本部長(校長)

情報収集とともに、安全な場所に避難の指示をする。

本部長(校長)

本部長の指示のもと、第一避難場所に避難の指示をする。

☆悪天候(強風雨、低温等)やなどで避難場所や避難経路が危険な場合は、最も安全な場所を指示する。

◆第1避難場所(校庭) 第2避難場所(ホール) 第3避難場所(体育館)

教職員

☆校内放送により一斉放送を行う。(指定職員)

☆指定職員(避難誘導班)は、避難経路の安全確認をする。

★ハンカチで口元を覆うなど、煙を吸い込まないようにさせる。

★児童の不安を緩和するように、落ち着いて声掛けする。

★避難前に人員を確認し、逃げ遅れることがないように指示する。

★自力で避難できない児童は、指定職員(避難誘導班)が介助して避難させる。

☆火元が給食室や家庭科室で「理科室・音楽室」で煙に巻かれ、西階段が使えない場合には、音楽室ベランダの非常階段の使用や2階ベランダを東側へ避難することも考慮する。

☆指定職員(本部)は、非常持出袋を搬出して避難する。

☆指定職員(安全点検)は、出入り口の開放、負傷者の確認を行う。

☆担任の指定職員(消火班)は、初期消火に向かう。

☆指定職員は、化学薬品や石油類の危険物の状態を確認する。

★指定職員(救急医療班)は、手当の必要な負傷者に応急手当を行う。

児童等

○火の元に遠い出口から校庭(風上)の安全な場所へ避難する。

○「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」の約束に従い行動する。

避難 誘 導

安否確認

教職員

★指定職員(本部)の指示で、クラス毎に整列させる。

☆クラス毎に人数と安否を確認し、本部に報告する。

担任 → **本部長(校長)**

★指定職員(救急医療班)は、負傷者の確認とけが人に対して応急手当を行う。

☆指定職員(救急医療班)は、必要に応じて医療機関との連携を図る。

災害本部
設置

本部長(校長)・教職員

☆本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務に当たる。

☆必要に応じて避難住民の対応に当たる。

被害状況の確認

☆指定職員(応急復旧班)は、施設の被害状況を確認し、本部に報告する。

☆危険箇所があった場合は、立入禁止措置を行う。(張り紙、ロープ等)

☆指定職員(応急復旧班)は、危険箇所の応急措置を行う。

★第1避難場所が危険な場合は、第2避難場所に誘導する。

★校舎等の安全を確認した後、児童を校舎内に移動させる。

事後の対応措置

本部長(校長)

☆本部で、被害状況を総合的に判断し、授業再開、下校時の判断、(集団下校)、保護者への引き渡し、学校での保護等のいずれかの措置について、指定職員により、保護者へ連絡する。

☆対応措置について、所管教育委員会に報告する。(協議する)

教職員

☆指定職員は、保護者へ連絡をする。(一斉メール配信、電話、緊急連絡網等)

電話、メールが使用できない場合を想定し、連絡方法について事前に文書等で取り決めておく。

竜巻発生時（弾道ミサイル）の対応と避難誘導

（１） 在校時の発生

☆教職員の行動

★児童への対応

竜巻発生時

竜巻が発生し、学校が進路にあたることを想定した場合

情報収集・避難の指示

本部長(校長)

情報収集とともに、安全な場所に避難の指示をする。

☆指定職員(本部)は、携帯テレビ(ワセグ)、ラジオ、インターネット、防災行政無線（Ｊアラート）等により、竜巻に関する最新の情報収集をする。

教職員

☆校内放送により一斉放送を行う。(指定職員)

☆停電時：指定職員(複数)は、ハンドマイク、メガホン等で避難行動を指示する。

竜巻が向かってくる心配があります。先生の指示に従って、慌てず、安全な場所へ避難してください。

できるだけ窓や壁から離れ、真ん中の安全な場所で姿勢を低くして手と腕で頭と首を守ってください。

教職員

☆外にいる児童は校舎内に避難させる。

☆窓を閉め、カーテンを閉めてガラスの飛散を防ぐ。

★落下物、飛来物、ガラスの飛散等から身を守らせる。

★壁や窓から離れ、壁、窓に背を向けないようにさせる。

★頭部を保護するため、机の下にもぐらせ、机の脚をしっかり持たせる。

★児童の不安を緩和するように、落ち着いて声掛けする。

安全確保・安否確認

教職員

★暴風がおさまり次第、指定職員(本部)の指示で、指定場所にクラス毎に整列させる。

☆担任は、クラス毎に人数と安否を確認し、本部に報告する。

担任 → 本部長(校長)

☆指定職員は、施設の破損状況を確認する。

★指定職員(救急医療班)は、負傷者の確認とけが人に対して応急手当を行う。

☆指定職員(救急医療班)は、必要に応じて医療機関との連携を図る。

設置 災害本部

本部長(校長)・教職員

☆本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務に当たる。

☆必要に応じて避難住民の対応に当たる。

被害状況の確認

☆指定職員(応急復旧班)は、施設、通学路等の被害状況を確認し、本部に報告する。

☆危険箇所があった場合は、立入禁止措置を行う。(張り紙、ロープ等)

☆指定職員(応急復旧班)は、危険箇所の応急措置を行う。

★教室等の安全を確認した後、児童を教室内に移動させる。

事後の対応措置

本部長(校長)

☆本部で、被害状況を総合的に判断し、授業再開、下校時の判断、(集団下校)、保護者への引渡、学校での保護等のいずれかの措置について、指定職員により、保護者へ連絡する。

☆対応措置について、所管教育委員会に報告する。(協議する)

教職員

☆指定職員は、保護者へ連絡をする。(一斉メール配信、電話、緊急連絡網等)

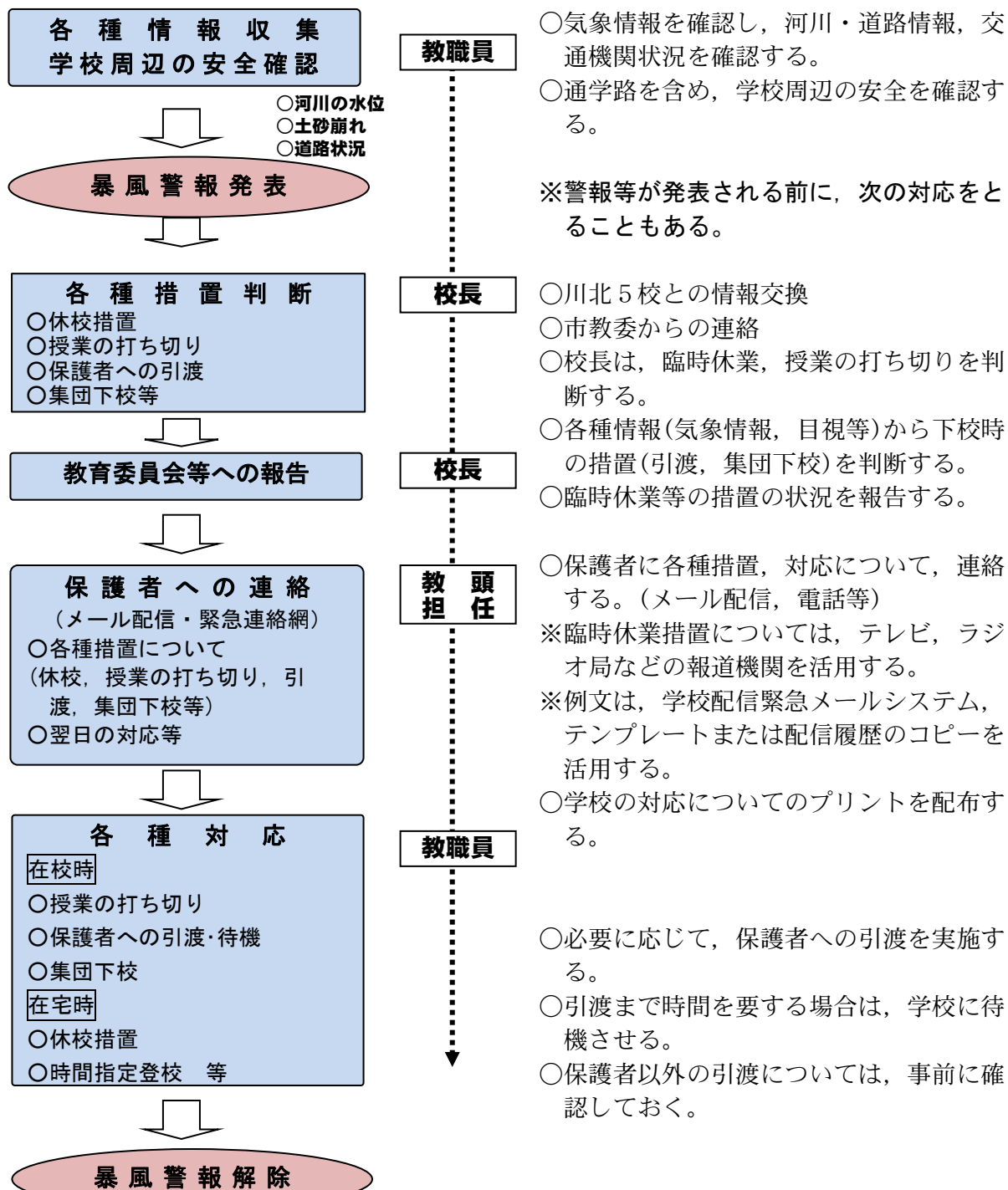
電話、メールが使用できない場合を想定し、連絡方法について事前に文書等で取り決めておく。

☆落下物等の不審な物には近付かない指導を行う。

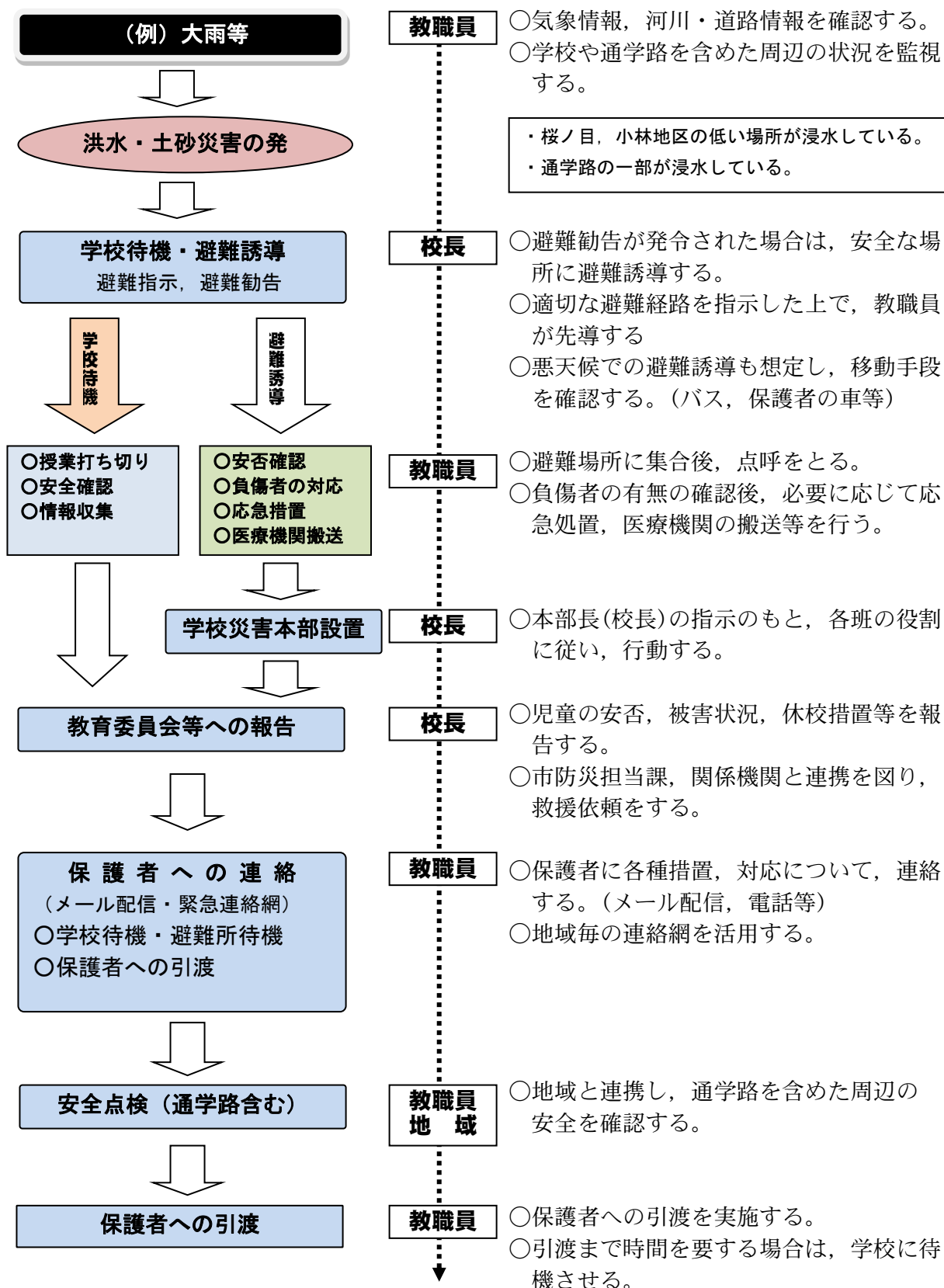
風水害が想定される場合の対応（暴風、大雨、洪水、大雪警報などが発表）

（１）暴風警報発表時の対応（災害発生前）

台風が接近（例）



(2) 災害発生時の対応（在校時の発生）



※引渡の手順を参照

資料編

(1) 津波警報・津波注意報, 地震・津波情報 (平成 25 年 3 月から内容が変更になる。)

情報の種類		解 説
緊急地震速報 (警報)		震源に近い観測点でとらえた地震波を解析し、その地震により震度 5 弱以上が推定された場合、その地域及び震度 4 が推定された地域を強い揺れが到達する前にお知らせします。なお、地震の震源が近い時は情報が間に合わない場合もあります。
震度速報		震度 3 以上の大きい揺れを伴う地震の発生を知らせる情報です。震度 3 以上を観測した地域名 (宮城県は 3 区域: 宮城県北部, 宮城県中部, 宮城県南部) とその震度をお知らせします。 この情報は、防災の初動対応をとるための情報で、地震発生後約 1 分 30 秒で発表します。テレビ, ラジオ等でも速報されます。
津波警報・津波注意報		津波により災害が発生するおそれがある地域 (宮城県の津波予報区は「宮城県」) に対し、予想される津波の高さに応じて「大津波」「津波」の津波警報, または津波注意報を発表します。 日本近海で発生する津波については、地震発生後約 3 分を目標に発表します。また、規模の大きな地震については、緊急地震速報の技術を用いて地震発生後 2 分程度で発表します。
津波情報	津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報	津波警報・津波注意報に引き続き、地震発生後 5 分程度を目標に、各津波予報区の津波の到達予想時刻 (10 分単位 (遠地地震については 30 分単位)) や予想される津波の高さ (8 段階, メートル単位), 地震の震源要素 (発生時刻, 緯度・経度, 深さ, 地震の規模 (マグニチュード)), 震央地名を発表します。
	各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報	津波警報・津波注意報を発表している津波予報区にある津波観測点の満潮時刻 (1 分単位) と津波到達予想時刻 (10 分単位, 遠地地震については 30 分単位), 地震の震源要素 (発生時刻, 緯度・経度, 深さ, 地震の規模 (マグニチュード)), 震央地名を発表します。
	津波観測に関する情報	津波観測点における津波の観測状況 (各津波観測点における第一波の到達時刻, 初動方向および振幅並びに最大の高さとその出現時刻) を適宜とりまとめて発表します。
	津波に関するその他の情報	津波による被害の心配はないが、若干の海面変動が予想される場合に津波予報区とその継続時間を「津波予報」として発表します。
地震情報	震源に関する情報	震源速報が発表された後、津波による被害の心配のないことが速やかに判明したとき、地震の震源要素 (発生時刻, 緯度・経度, 深さ, 地震の規模 (マグニチュード)), 震央地名, および「津波の心配なし」または「若干の海面変動があるかもしれないが、被害の心配なし」を付加して、地震発生から 2 ～ 5 分程度で発表します。 この情報は、大きな揺れ (震度 3 以上) があるが、津波による被害の心配はない時に、防災機関の防災対応 (即時対応) に資するために提供するものです。津波警報・津波注意報を発表したときには、この情報は発表しません。
	震源・震度に関する情報	最大震度 3 以上が観測されたときに発表する情報です。 地震の震源要素 (発生時刻, 緯度・経度, 深さ, 地震の規模 (マグニチュード)), 震央地名, 震度 3 以上が観測された地域名と大きな揺れが観測された市町村名を地震発生から 5 ～ 10 分程度で発表します。震

		度5弱以上になった可能性がある市町村の震度データが得られていないとき、その事実を含めて発表します。 「津波なし」の場合はその旨を付加した津波予報を含めて発表します。
各地の震度に関する情報		最大震度1以上が観測されたときに発表する情報です。地震の震源要素（発生時刻、緯度・経度、深さ、地震の規模（マグニチュード））、震央地名、観測点ごとの震度からなる情報です。 震度5弱以上になった可能性がある震度観測点の震度データが得られていないとき、その事実も含めて発表します。 「津波なし」の場合はその旨を付加した津波予報を含めて発表します。
地震回数に関する情報		地震が多発した場合、震度1以上を観測した地震回数を発表します。
地震の活動状況に関する情報		気象庁が報道発表を行ったとき、その内容を発表します。

（気象庁ホームページ資料から）

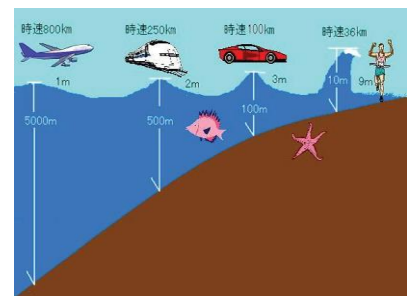
（２）津波警報・注意報等の解説（平成25年3月から内容が変更になる。）

津波警報・津波注意報		解 説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	高いところで3m程度以上の津波が予想されるときに発表します。 家屋の倒壊など、人命に関わる被害が発生するおそれがあります。	3m, 4m, 6m, 8m, 10m以上
	津波	高いところで2m程度の津波が予想されるときに発表します。 漁船の流失や家屋の浸水などの被害が発生するおそれがあります。	1m, 2m
津波注意報		高いところで0.5m程度の津波が予想されるときに発表します。 満潮時刻と重なると、湾の奥など津波が高くなりやすい場所では、浸水などの被害が発生するおそれがあります。	0.5m
津波予報		津波の心配がない場合や、津波による被害の心配がないものの、若干の海面変動が予想される場合に発表します。	

（気象庁ホームページ資料から）

津波の速さと高さ

津波の速度は水深によって決まります。沖合の深いところでは速く、浅いところでは遅くなります。水深5000mでジェット機並みの時速約800km/h、水深500mで新幹線並みの時速約250km/h、水深100mで高速道路を走る自動車並みの時速約100km/h、水深10mでオリンピックの短距離選手並みの時速36km/hになります。また、水深が浅くなるほど津波は高くなります。速度が速い沖合では、波高に比べて波長が非常に長いので目で見えるのは目前に迫ってからですが、そのときには逃げ遅れてしまうおそれがあります。（気象庁ホームページ資料から）



(3) 緊急地震速報について

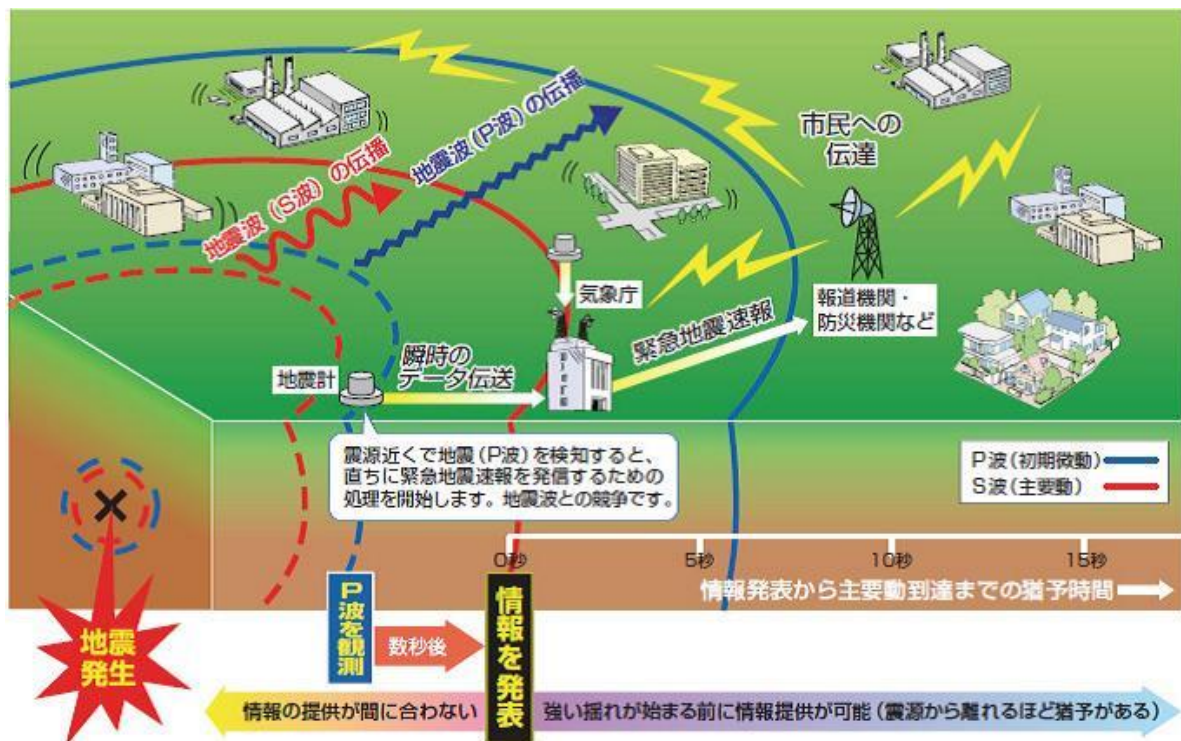
緊急地震速報とは、地震発生直後に地震の震源に近い観測点でとらえた地震波形から震源、地震の規模（マグニチュード）、震度を解析し、地震による強い揺れが迫っていることを伝える地震情報です。

地震の揺れは震源から波紋のように波（地震波）として伝わっていきます。この地震には、主に2種類あり、最初に秒速約7kmで伝播するP波（初期微動）、続いて秒速約4kmで伝播し、強い揺れをもたらすS波（主要動）が伝わってきます。

緊急地震速報は、日本全国に配置された地震計（気象庁の約200箇所、独立行政法人防災科学技術研究所の約800箇所）の中で、地震の震源に近い地震観測点で得られたP波を解析し、秒単位という短時間に震源、地震の規模および各地の震度を測定し、被害を及ぼすおそれがある主要動が到達する前にお知らせする地震情報です。

緊急地震速報（警報）は、検知した地震波の解析により震度5弱以上の強い揺れが推定された場合に発表し、その内容は震度4以上の揺れが推定された地域名です。発表はテレビ・ラジオを通じて行いますが、このほか電話回線、衛星通信等の様々な伝達手段を利用して行います。緊急地震速報は活用して主要動が到達する前に身の安全を図り、あるいは企業の事業継続等のための適切な対策をとることができれば、地震被害の大幅な防止・軽減が期待されます。

ただし、緊急地震速報には、①震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わない、②予測する震度は±1段階程度の誤差を含んでいる、③警報を速いタイミングで発表できない場合があるなどの限界があります。緊急地震速報を有効に利用するためには、情報の有効性や限界などを理解しておくと同時に、日頃から短時間に退避行動が行うことができるように訓練をしておく必要があります。



(気象庁ホームページ資料から)

(4) 災害用伝言ダイヤルの利用方法

大災害が発生した場合には、安否確認、問い合わせ等の電話が殺到することで、電話回線が混乱し、つながりにくい状況になります。

災害用伝言ダイヤルは、被災地エリアで利用できるサービスで、電話番号をメールボックスにして、安否などの情報を音声によって登録・確認できるサービスとして活用できます。

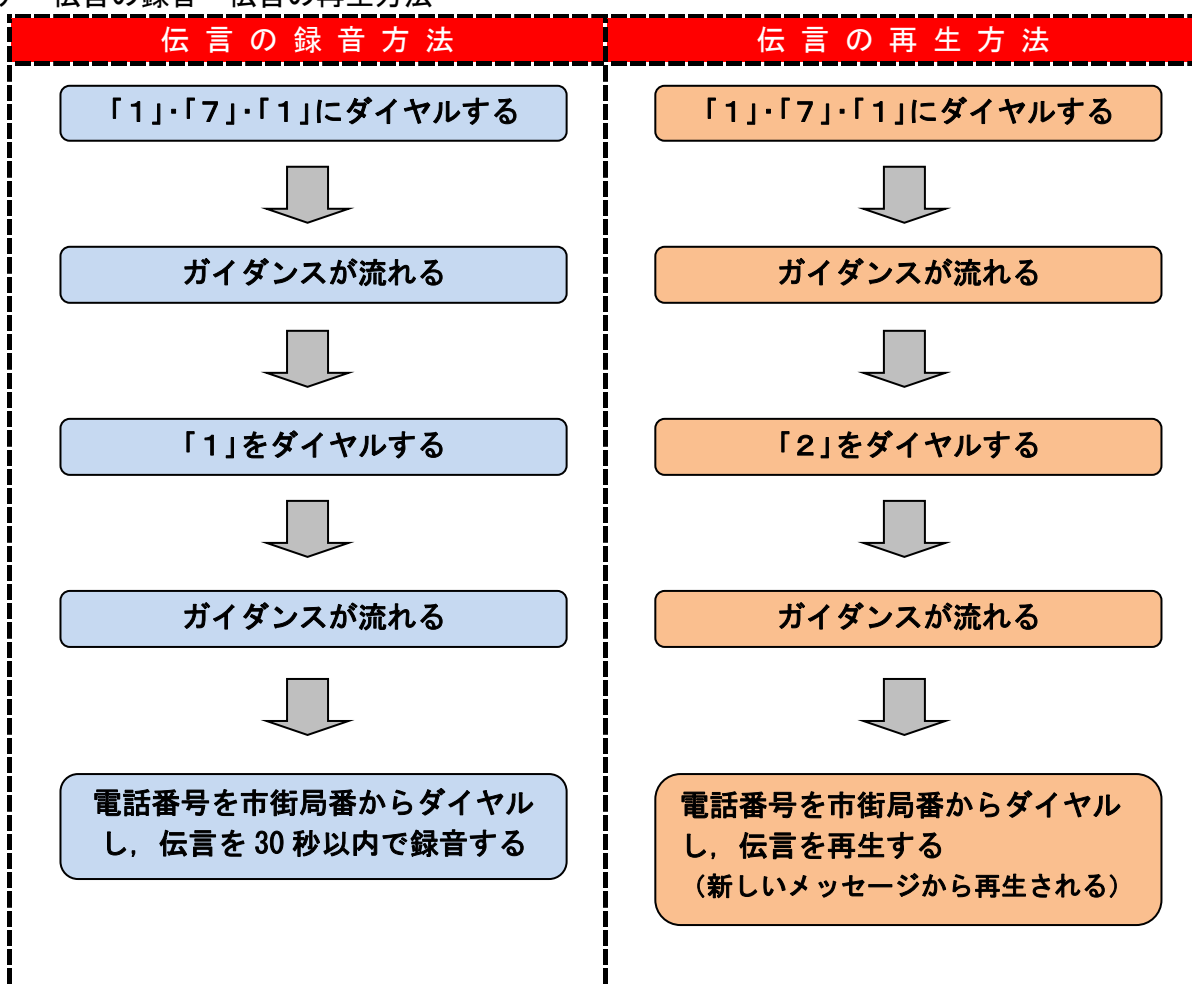
① エリアの決定

震度6弱以上の地震発生時等にテレビやラジオ等でNTTが「171（災害伝言ダイヤル）」を設置したことや、利用方法・伝達登録エリアを都道府県単位で知らされます。

② 利用方法

一般電話、公衆電話、携帯やPHSから利用できます。

ア 伝言の録音・伝言の再生方法



イ 伝言の録音時間

1 伝言あたり 30 秒以内

ウ 伝言の保存期間

録音時から 48 時間

エ 伝言の蓄積数

1 番号あたり 1～10 件

Ⅲ 生活安全・交通安全指導計画

1 目 標

日常生活における安全のために必要な事柄を理解させ、自他の生命を尊重し、安全な生活を営むことのできる態度や能力を養う。

2 基本方針

- (1) 事故や災害の発生する原因、場及び発生しやすい状態等を理解し、それを予防する態度や能力を身につける。
- (2) 日常の生活を安全に過ごすために必要なきまりを作り、それを守ろうとする態度を養う。
- (3) 用具・施設や場所の安全を確かめ、安全な環境で行動できるようにする。
- (4) 遊びや活動の中で、安全に対する適応能力を伸ばすことができるよう遊具や施設の積極的な活用を図る。
- (5) 児童の発達段階に応じて安全な生活ができるような態度や習慣を養う。
- (6) 事故や災害の発生時には、集団下校等でそれを最小限に留め適切な救急措置が取れるようにする。
- (7) 不審者に対する対処法を理解し、安全に登下校できる態度や能力を身に付ける。

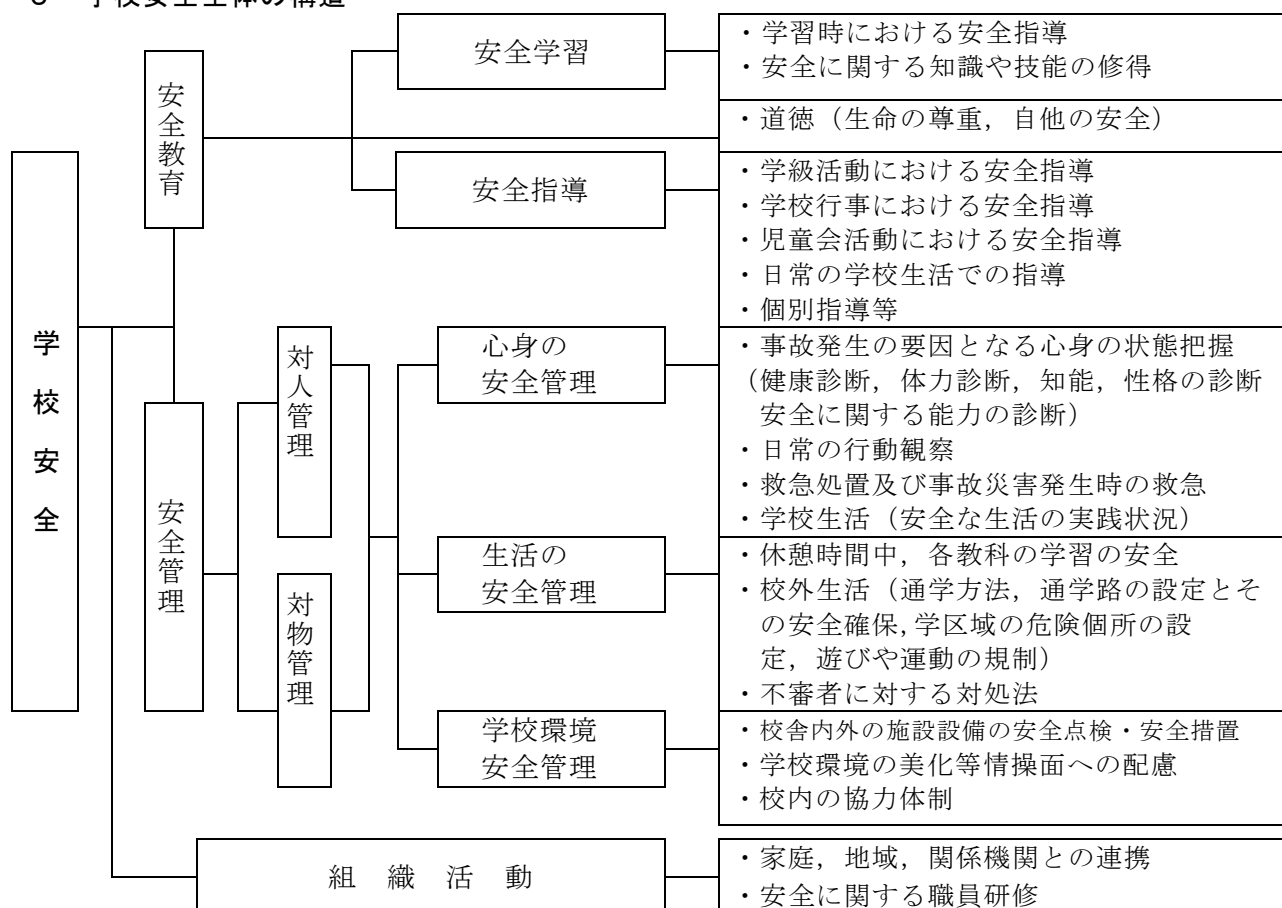
3 努力点

- (1) 教育活動の各領域・安全教育の果たす役割を明確にして指導する。
- (2) 校地・校舎の施設・設備改善と安全点検を強化する。
- (3) 交通安全教育の徹底を図り事故防止に努める。自転車に乗る時はヘルメットの着用をするように進める。
- (4) 父母や地域の関係諸団体と密接な連携を図り、協力体制を整えて児童の安全を図る。

4 施設・設備の安全管理

- (1) 毎月15日を「学校安全の日」と定め、施設・設備の全般及び暖房・防火設備などを対象とし、安全点検表により観点を定めて安全点検を行う。
- (2) 日常の安全点検を強化すると共に、運動会・学芸会などの学校行事の前後に安全点検を行う。
- (3) 事後措置として使用禁止や危険標識を明示などして事故の防止に努める。

5 学校安全全体の構造



6 安全指導年間指導計画

(1) 生活安全

項 目	低 学 年	中 学 年	高 学 年
休み時間の安全	☆廊下の正しい歩き方 ☆固定施設の正しい使い方 ☆教室・運動場での安全な遊び方	★廊下の正しい歩き方 ★固定施設の正しい使い方 ★教室・運動場での安全な遊び方	◆教室の出入りと廊下の歩行 ◆教室・運動場での安全な遊び方
避難の仕方	☆避難のわけ ☆避難の仕方 ☆避難場所	★火災，地震の時の避難の仕方 ★不審者進入時の非難の仕方 ★避難の時の約束 ★避難の場所，並び方	◆火災，地震の時の避難の仕方 ◆乗り物，宿舎での避難 ◆不審者や火災を発見した時の通報
水泳の安全	☆水への入り方。 ☆水遊びの決まり ☆プールの安全な使い方	★水への入り方。 ★水遊びの決まりと注意 ★プールの安全な使い方	◆水泳の心得 ◆プールの安全な使い方
学習時の安全	☆ハサミ，カッターの正しい使い方	★小刀や彫刻刀の正しい使い方 ★理科実験器具の正しい使い方	◆木工具，金工具の正しい使い方 ◆理科実験器具の正しい使い方 ◆家庭科用具の正しい使い方
清掃・作業時の安全	☆給食の安全な運び方 ☆学級園作り ☆野外観察の安全	★清掃時の安全 ★学級園作り ★野外観察の安全	◆清掃・給食時の安全な移動 ◆野外観察等の移動
運動・スポーツの安全	☆運動時のきまり ☆石，ガラスかけを拾う ☆運動の場所を確かめる	★場所，用具の点検 ★器械運動の時の決まり ★石，ガラスかけを拾う	◆運動時のきまり ◆用具の点検と簡単な準備 ◆クラブ活動の安全
遠足修学旅行時の安全	☆楽しい安全な遠足	★楽しい安全な遠足 ★遠足時の決まり	◆宿泊学習，修学旅行時の安全
服装の安全	☆体に合った服装 ☆危険な持ち物	★季節と運動に合った服装 ★持ち物と服装 ★危険な持ち物	◆作業と服装 ◆仕事の能率と安全 ◆危険な持ち物
家庭生活の安全	☆決まりよい生活 ☆おつかい ☆家での遊び	★決まりよい生活 ★おつかい ★家での遊び	◆規則正しい生活 ◆おてつだい ◆家の中や，家のまわりの安全生活
安全な生活	☆自分たちのまわりの危険なところ ☆危険な行い ☆体の具合悪いとき ☆自転車に乗る時は，ヘルメットを着用 ☆不審者には近寄らない	★けんかや遊び ★危険なものや危険な場所の見つけ方 ★自転車に乗る時は，ヘルメットを着用 ★不審者には近寄らない	◆けがの原因 ◆危険物，危険な場所の見つけ方 ◆安全な活動 ◆自転車に乗る時は，ヘルメットを着用 ◆不審者には近寄らない

(2) 安全点検

① 校舎内

	点 検 項 目	4 月	5 月	6 月	7 月
学 校	窓ガラスは、こわれたりはずれたりしていないか。				
	窓や戸がはずれやすくなっていないか。				
	床板、腰板がこわれていないか、釘が出ていないか。				

② 固定施設

遊具名	点 検 項 目	4 月	5 月	6 月	7 月
鉄 棒	金属の疲労，金具のゆるみ。				
すべり台	滑り板の状態。金具の取付け。				

③ 実施方法

- ・ 定期の安全点検は教職員が複数で分担して行う。
- ・ 毎月 15 日に安全点検表をもとに各分担箇所を点検する。
- ・ 定期の安全点検とは別に各学期 1 回全職員で学校の敷地内の点検を行う。
- ・ 点検の記録は，安全主任が集約し校長（教頭）に提出する。

④ 実施上の留意点

- ・ 児童の目の高さで点検を行う。
- ・ 緊急の場合は，安全点検日を待つことなく，安全主任又は教頭に連絡して，改修にあたる。

(3) 交通安全（学級の活動の時間を利用して指導する。）

項 目	低 学 年	中 学 年	高 学 年
安全な 登下校	☆通学路の安全な歩き方を知る。 ☆横断する時の安全を確認するときの安全を確認する。	★まがりかどや横断時の安全な行動の習慣化	◆進んで交通ルールを守る。 ◆安全について考え，行動できる。
あぶない 遊び	☆道路遊びの危険について ☆安全な場所での遊び	★遊びと交通事故の関係を 知り安全に遊ぶ ★安全な遊びの工夫	◆交通道德の意識を高める。 ◆校外における危険な遊びについて考える
雨・風・雪 の日	☆雨・風・雪の日の安全な学校の行き帰り	★気象条件の変化による危険について知る	◆正しい判断のもとに安全な行動ができる ◆小さい人の面倒をみる
乗り物の 安全な利用	☆安全な乗り方について	★乗降の時の危険を知り安全な乗り方について心がける。	◆利用時のルールについて知り，他の人々の安全に留意する。
自転車の 安全な利用	☆自転車の安全な乗り方 ☆決められた場所で乗る。 ☆自転車に乗る時は、ヘルメットを着用する。	★自転車の安全な乗り方 ★自転車事故の起こる場所や原因 ★自転車に乗る時は、ヘルメットを着用する。	◆自転車に乗るときの決まりを守る。 ◆安全な乗り方を工夫する。 ◆自転車に乗る時は、ヘルメットを着用する。
交通標識と 表示	☆交通安全施設の使い方 ☆道路標識やいろいろな標識について知る	★道路標識や表示について知る。	◆道路標識や表示の交通安全に果たす役割を理解する。
社会の交通 安全	☆身の安全を守る。 ☆他の人に迷惑をかけない。	★安全な施設の役割と正しい利用の仕方について知る。	◆交通安全運動への協力 ◆自他の安全を守る。

- * 4 月と 6 月に通学路危険箇所点検を担当地区ごとに 1 時間程度行い，共通理解を図ると共に P T A 活動での啓発に生かす。

安全点検：遊具マップ

校 舎



バスケットコート



鉄 棒



サッカーゴール



築 山



投てき板



タイヤ跳び



一輪車補助ポール



シーソー



うんてい



すべり台



低鉄棒



ぶらんこ



うんてい



サッカーゴール



ジャングルジム



バックネット



すべり台

体
育
館

児童の交通事故発生時の対応マニュアル

第1次対応

事故の状況把握
管理職等への連絡

事 故 発 生

第 1 報 の 受 信

- ・ 時間
- ・ 児童氏名（学年）
- ・ 場所
- ・ けがの状況
- ・ 事故の状況

校長・教頭、担任へ報告

第2次対応

当該児童及び保護者
への対応
関係機関への速報

判断 1

担任の動き

↓
保護者へ連絡

↓
病院に急行
児童の様態等を
学校へ報告

教頭
安全主任の動き

事故現場の把握
事故状況の確認
他に関係児童がい
ないかの確認

校長、教頭の動き

- ・ 教育委員会へ速報
- ・ 他の関係児童への対
応
- ・ 他の関係児童の担任
から保護者への連絡

全教職員への報告及び事後対応の協議

判断 2

第3次対応

事後処理と安全指導

担 任

- ・ 被害児童、関係
児童の心のケア
- ・ 保護者のケア

安全主任

- ・ 原因の分析
- ・ 再発防止対策
- ・ 交通安全指導の徹底

校長、教頭

- ・ 報告書の提出
- ・ 保護者への報告
- ・ 危険箇所の点検
- ・ 交通安全指導の改善,
教職員への指示

不審者の侵入や変質者出没等に関わる指導と危機管理

1 目的

- (1) 不審者の侵入や変質者出現等から、児童・教職員及び校舎・校地、学区内の安全と保全の確保に努める。
- (2) 安全で整理整頓された教育環境のもとで、相互の生命の尊重と豊かな完成及び心身共に健全な児童を育てる。

2 児童への指導

- (1) 不審者、変質者を発見した場合は、不審者・変質者に絶対に近付かないと共に早急に近くにいる教職員に連絡すること。
- (2) 登下校や放課後等の場合は、近くにいる人（大人）や家に急いで行き、助けを求めること。

3 教職員の共通理解と共同行動及び父母・関係機関との連携

- (1) 常に不審者の侵入や変質者出現への危機管理意識を持ち、事故防止に向けた指導に努める。
- (2) 職員の報告・連絡・相談を密にし、児童が安心して学習活動ができる学校及び校地の安全保持に最善を尽くす。
- (3) 不審者、変質者が出た場合は、緊急避難や集団登下校、父母の協力や関係機関の指導等を得ながら具体的に効果的な指導を行う。

4 校舎・校地の巡視と観察

		午前（業間）	昼食後放課後	備 考
校舎内		養護教諭	教務主任	校舎内外の不審者の有無や児童の様子、戸締り、保全・衛生等の実態把握と安全確保
校地内		事務職員	業務員	
全 域	教室等	学 級 担 任		校舎内外での児童の把握と指導
		日 直		日直の服務規定にもとづく
		校長 教頭		目的達成のための常時巡視

◎ 校舎及び校地の要注意施設箇所

- | | |
|----------------------|------------------|
| ① 図工室・生活科室と廊下の施錠 | ② 昇降口・職員玄関の開閉 |
| ③ 1年・2年・3年教室の外への出入り口 | ④ 保健室の外への出入り口 |
| ⑤ 家庭科室・給食室等の出入り口・窓・戸 | ⑥ 体育館へ行く通路 |
| ⑦ 体育館の玄関・窓・戸 | ⑧ 旧園舎の玄関及び出入り口・窓 |
| ⑨ 校門と公園、職員通用門、外倉庫の周辺 | ⑩ 学校田から体育館への通路 |

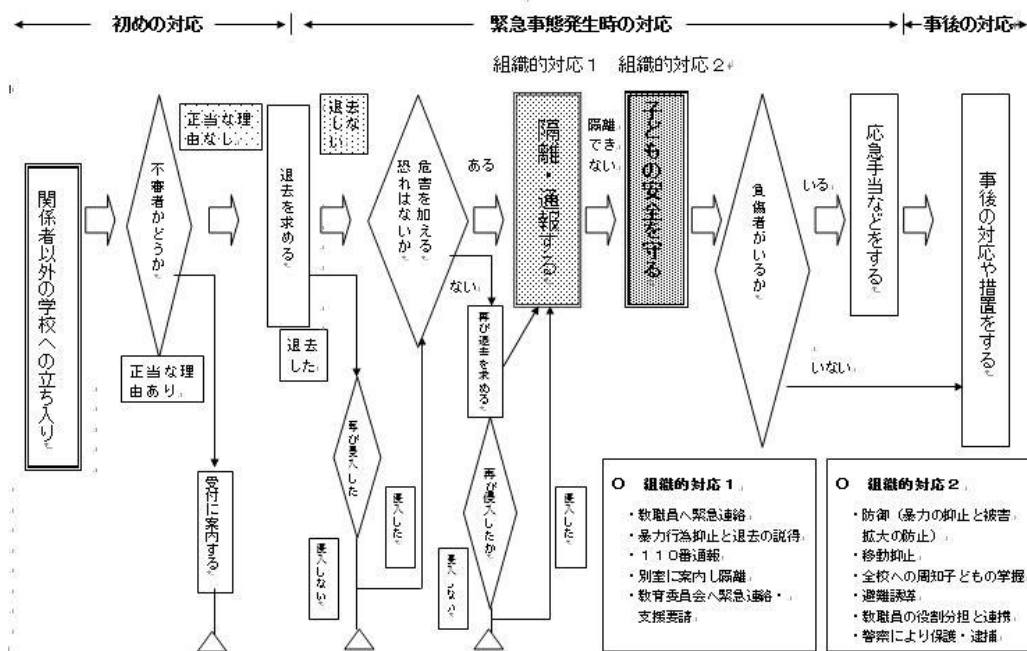
5 緊急体制

教育計画「緊急事態発生時とその対応について」ので対応

6 留意事項

上記以外のことで必要なことは、いつでも早急に対応できるように和と協同で取り組む。

学校における不審者への緊急対応



放射線教育指導計画

1 目 標

- ・放射線についての基本的な知識を身に付けさせる。
- ・放射線の人体への影響について理解させ、放射線から身を守る方法を身に付けさせる。

2 基本方針

- ① 学校全体で「日常生活における留意点」の習慣化を図る。
- ② 保健体育科と学級活動を中心に指導するが、他教科や道徳、外国語活動でも関連をもたせながら指導を行う。
- ③ 指導する際は、発達の段階を踏まえるとともに、過度に恐怖心をあおらないようにする。
- ④ 地域や食材等の放射線量の変化や社会情勢の変化等を考慮して指導する。

3 学級活動・保健体育科の主題とねらい

	主 題	ねらい
5 年 生	<保健> 安全な 生活行動	<ul style="list-style-type: none">・東日本大震災を振り返り、災害発生時どのような行動をとらなくてはいけなから考える。・大震災のとき、福島原発の事故で放射能物質が大量に漏れ出し、この大崎も汚染されたこと。できるだけ被ばくしないよう、放射線から身を守るよう注意しながら生活しなくてはいけなからを理解する。・具体的に放射線から身を守る方法を知る。
6 年 生	<保健> 病気の予防	<ul style="list-style-type: none">・放射線とは・被ばくとは・放射線の測定方法・放射線から身を守るには（原発事故が起こったときの心構え）

4 教材等

- ・「放射線について考えてみよう」 文部科学省発行 （各教室にあり）
- ・簡易放射線測定器「はかるくん」
（申込用紙は、「はかるくん」で検索し、ネットからダウンロードする）
- ・放射線測定器 県教育委員会の貸出 申込用紙あり
（担当：宮城県教育庁スポーツ健康課学校安全体育班 電話 022-211-3667）

5 日常生活における留意点

- ・屋外での活動から戻ったら、うがい・手洗いをさせる。また、校舎に入る前に衣服に付いたほこりや靴に土などを落とす。
- ・川や水たまりの水、土や砂などを口に入れないようにさせる。
- ・風が強いときは窓を閉める。
- ・雨の日は傘をさし直接雨に当たらないようにさせる。
- ・畑や花壇での活動の際は、十分に手洗いをさせる。
- ・毎日お風呂に入ったり、シャワーを浴びたりして体を清潔にさせる。
- ・雨どいの下や側溝のどろなど、高線量の場所に近付かないようにさせる。
- ・安全が確認された食物を食べるようにさせる。学校畑の作物は、市教育委員会総務課又は中央公民館にて測定することができる。

熱中症対策について

宮沢小学校

基本方針

- | |
|------------------|
| 1 基本的な予防対策を徹底する。 |
| 2 疑いの段階で受診させる。 |

1 対応基準

- (1) WBGT 31℃以上の場合は、体育の授業及び野外活動等はしない（中止する）。
- (2) WBGT 28℃～31℃の場合は、激しい運動を伴う体育、野外活動は実施しない（中止する）。
- (3) WBGT 31℃以上の場合は赤旗、WBGT 28℃～31℃の場合は黄旗を掲揚する。
- (4) WBGT 31℃以上の場合は、屋外での遊びを禁止する放送を行う。
- (5) WBGT 28℃～31℃の場合は、屋外での遊びに注意するよう放送する。
- (6) 下校時WBGT 31℃以上の場合は、注意を呼びかける指導を行う。夏季休業中のプール使用後の帰宅時も同様の指導を行う。

2 基本的な予防対策を徹底する。

- (1) 朝の健康観察を適切に行う。
 - ・ 応答だけでなく、表情や態度をよく観察する。
 - ・ 必要に応じて検温する。（野外活動を行う日は必ず行う。）
 - ・ 体調不良あるいは、その疑いが見られる場合は、その旨を保護者に伝え、早退を促したり、活動への参加について意向を確認したりする。
- (2) 体育や野外活動を行う際には、定期的に水分補給させる。
 - ・ 15分程度の間隔で休憩及び水分補給を行わせる。
 - ・ 着帽させる。
- (3) 通常の生活においても休憩時間は水分補給させる。
 - ・ 休憩時間ごとの声掛けを行う。

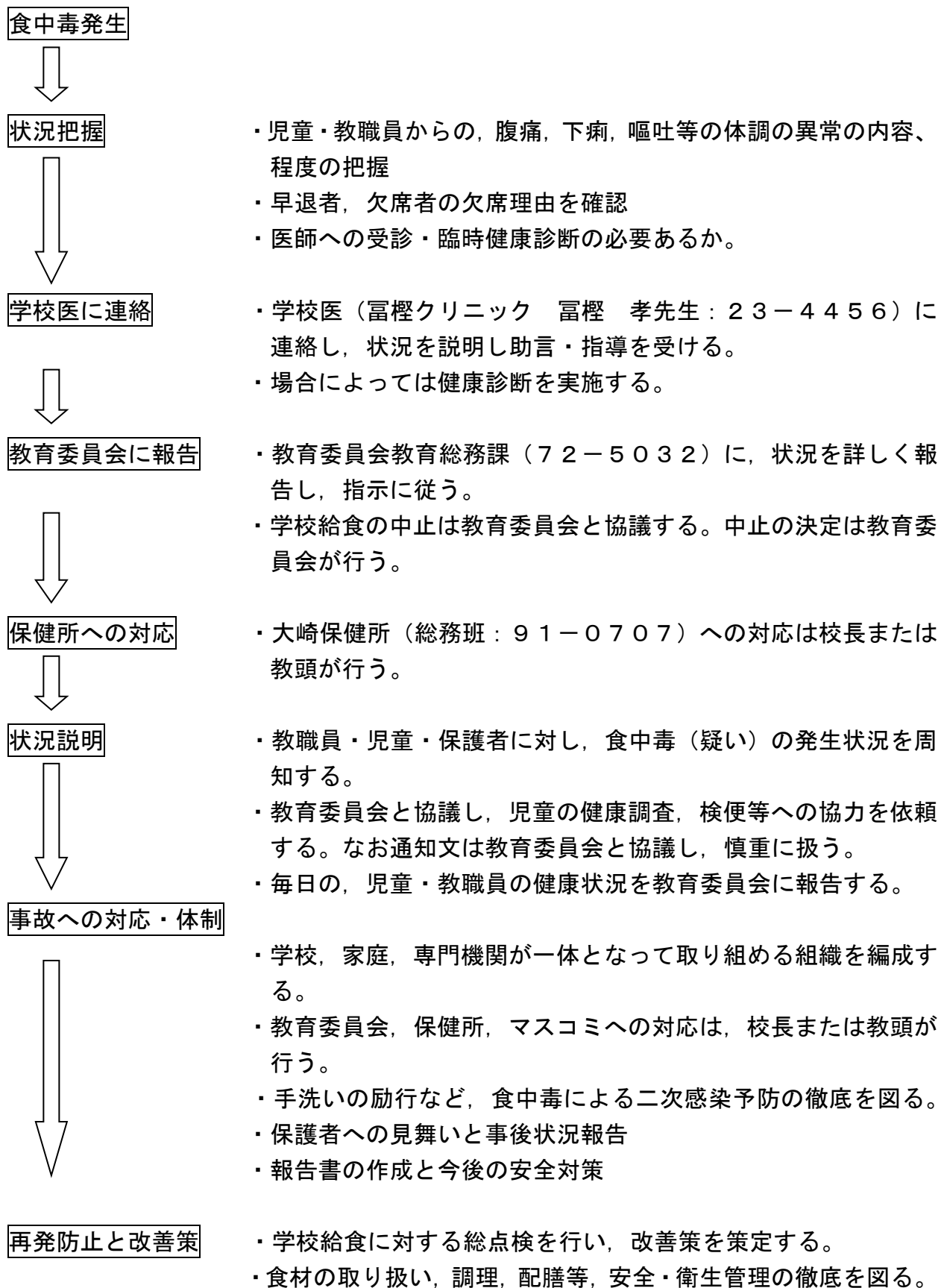
3 疑いの段階で受診させる。

- (1) 体調不良を訴えた際には、原則として早退させる。
- (2) 熱中症の疑いのある場合は、保護者にその旨を連絡し、受診を促す。
 - * 以下の内容を伝える。
 - ・ 活動の状況から、熱中症の疑いがあること。
 - ・ 医師の判断が必要なこと。
 - ・ 診断結果について学校に連絡して欲しいこと。

4 その他

- (1) 水筒の中身の選択については、保護者の判断とする。
- (2) 塩分補給の塩飴や塩分補給タブレットは持たせず、与えない。

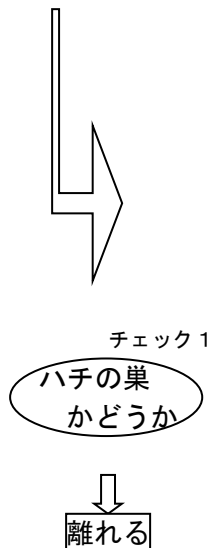
学校給食と思われる集団食中毒の発生対応マニュアル



スズメバチ刺傷事故対応マニュアル

想定：宿泊体験学習でのスズメバチ刺傷事故

事前指導



スズメバチの生態

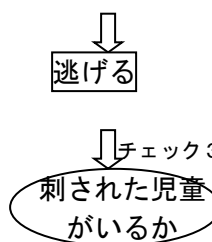
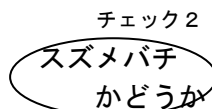
- 服装
- ・ 白っぽい服装（長袖，長ズボン，帽子）。白い色や黄色，銀色などには反応が弱い。黒っぽい服装はしない。
 - ・ 匂いの強いものは厳禁。

緊急事態に備えて携帯するもの

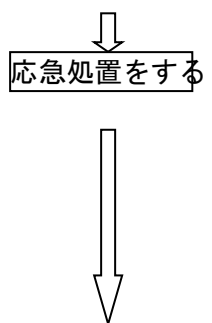
- ・ ポイズンリムーバー（吸引器）
- ・ 抗ヒスタミン剤含有軟膏
- ・ 携帯用ハチノックスプレー
- ・ ピンセット

ハチに遭遇した際の注意事項

- ・ 巣を見つけたら近寄らない。
- ・ 登山中は登山道から離れない。離れる場合は灌木の茂みや樹の洞には注意する。
- ・ 巣から後ずさりして離れる。



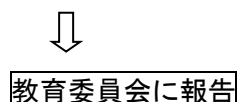
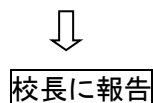
- ・ ハチがいたら（羽音がしたら），大声を出さないで静かに逃げる。
- ・ ハチに遭遇したら動かない。怖くてしゃがんだり，逃げ出したり，手で振り払ったり，急に向きを変えたりしない。タオルを振り回したりしない。頭を隠し，姿勢を低くしてゆっくりその場を離れる。
- ・ 刺されたら逃げる。（巣から離れる）



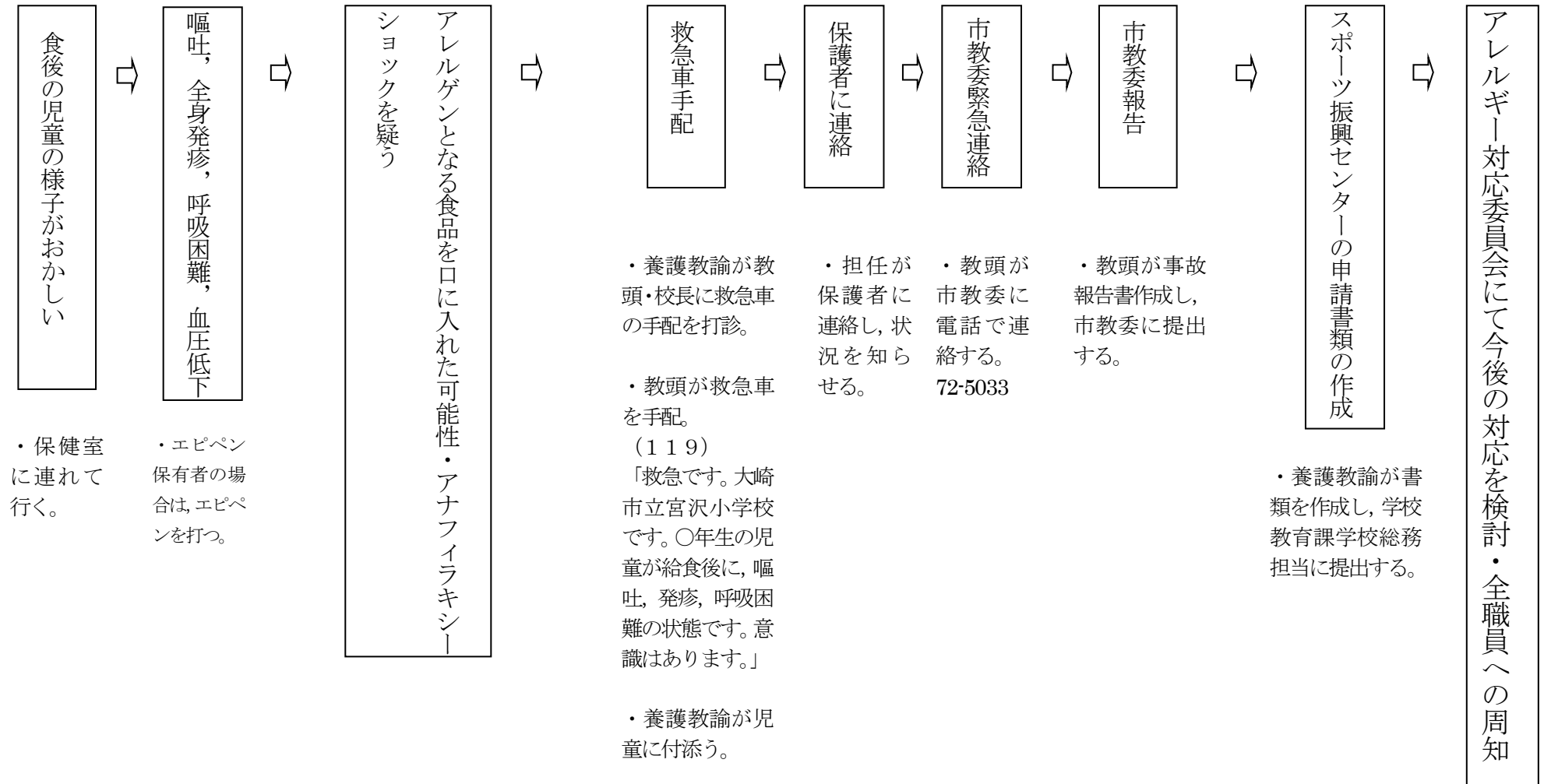
- ・ 毒と血液を一緒に絞りだすようにして水で洗い流す。
- ・ 痛み，腫れは，冷水や保冷剤などで冷やす。
- ・ 市販の薬では，抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗る。アンモニア水は効果がない。
- ・ 気分が悪い，息苦しいなどの場合はショック症状の前兆なので救急車を呼ぶ（自然の家等の施設と連絡）。
- ・ 針が残っている場合は針を抜き，できるだけ毒を吸い出す。刺された場所を水で十分洗う。

医療機関での処置

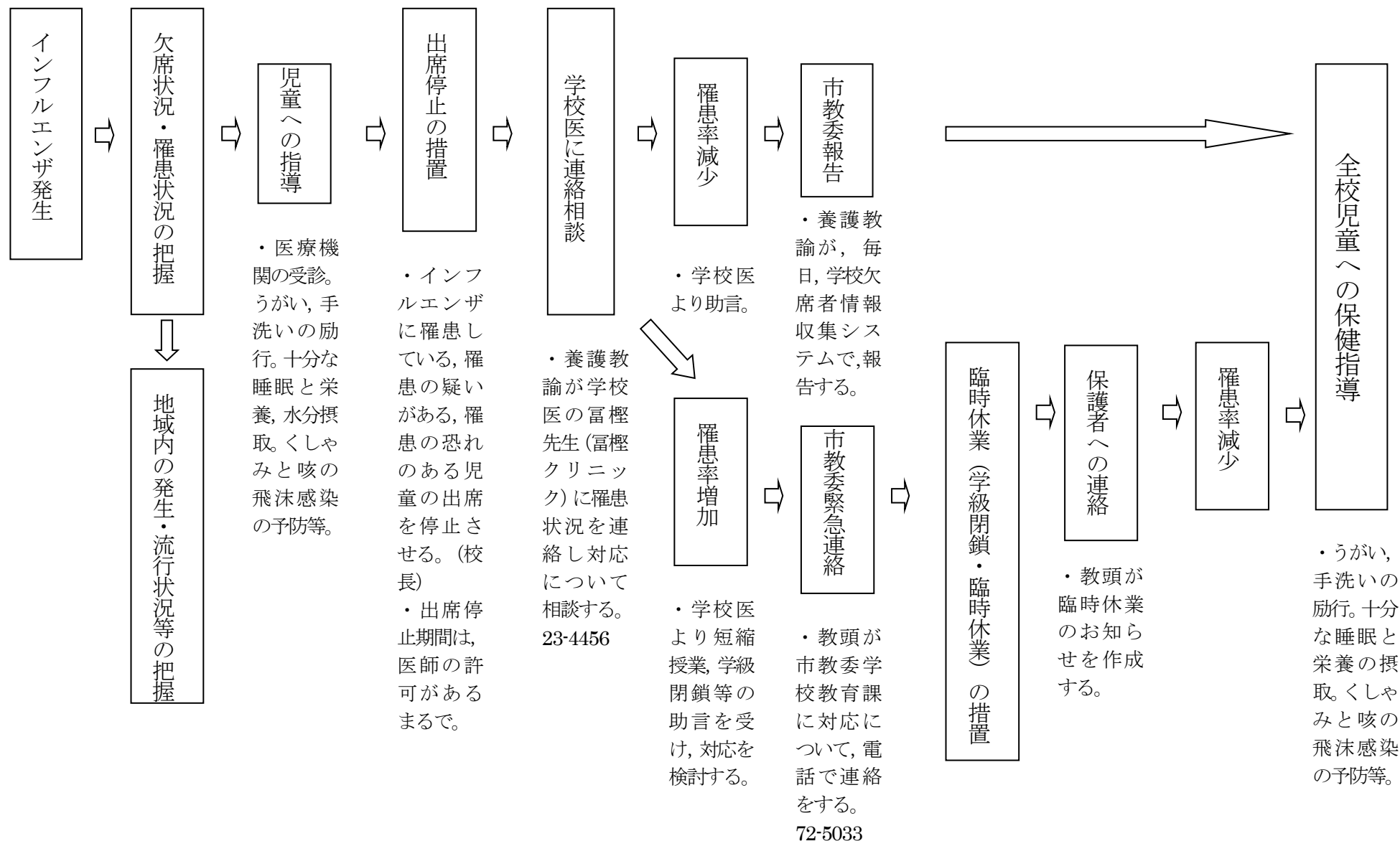
- ・ できるだけ早く医者の診察を受けて適切な処置をする。



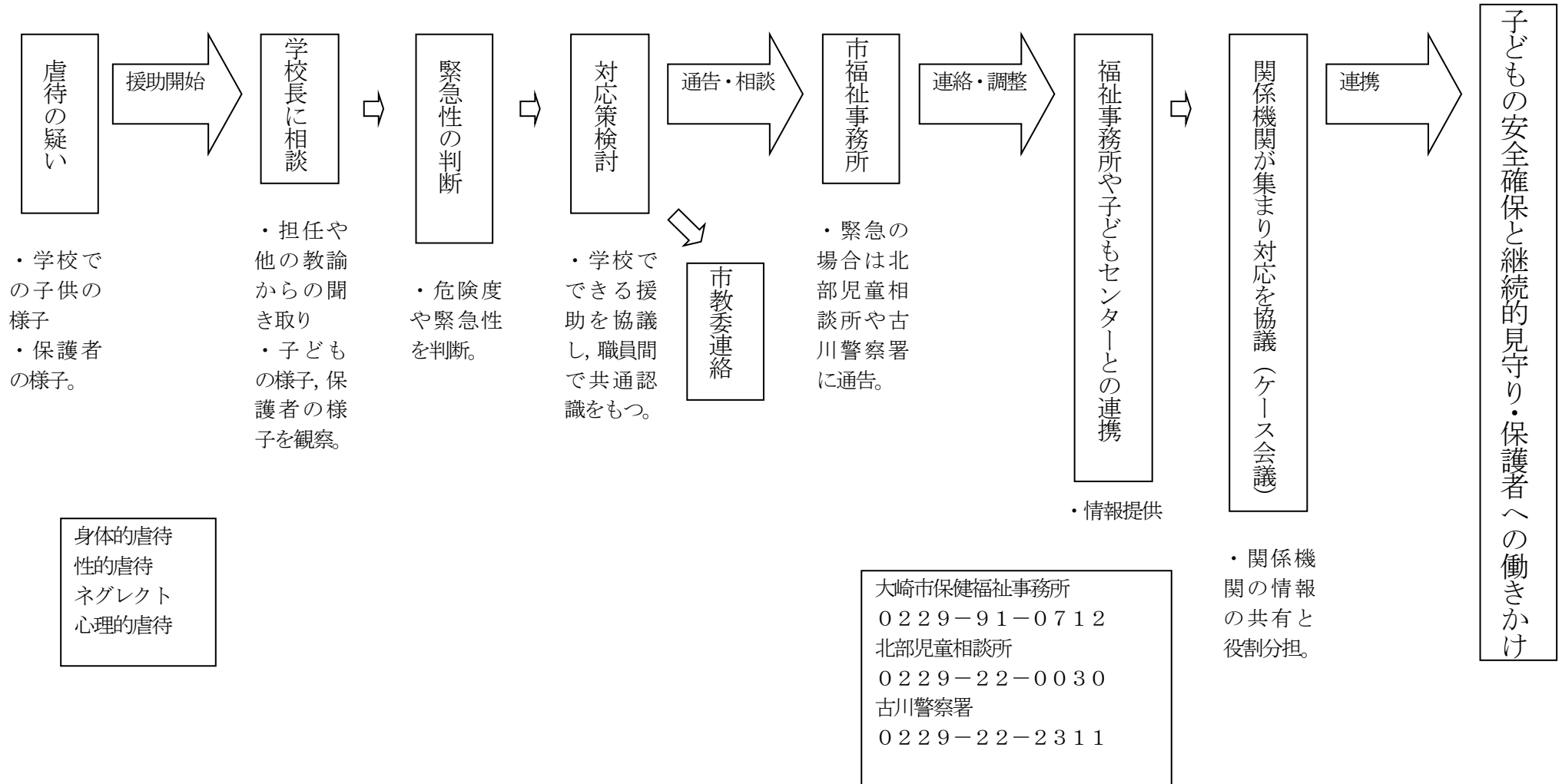
アナフィラキシー等緊急時の対応について



インフルエンザが発生した時の対応マニュアル



児童虐待対応マニュアル



発作・事故発生!

こんな時には救急車を!!

- ・意識喪失の持続
- ・ショック症状(顔面蒼白, 冷や汗, 虚脱、脈拍低下, 呼吸困難)の持続
- ・けいれんの持続
- ・激痛の持続
- ・多量の出血
- ・骨の変形
- ・大きな開放創
- ・広範囲の火傷
- ・呼吸困難
- ・心臓病の疑い
- ・その他緊急を要するもの

誤飲など
で手
当が

現場で協力を求め、傷病者から離れない

現場へ急行・応急手当

〈教頭・養護教諭・学級担任〉
※養護教諭不在時は
その場に居合わせた職員が対応

☆どんな場面においても
臨機応変に対応する。
☆事故発生から、時間を追って
記録をする。
☆誰もが動ける体制を!

判断・指示 <校長・教頭>

* 状況によっては指示を待たずに発見者が119
番通報をする。

児童への対応

〈学級担任・他の職員〉
・教室に入れ、落ち着かせる
・大きい事故の場合は、職員2人以上
で事情を聴取する

携帯からも119でOK!

119番 通報 <教頭または発見者>

- ①救急車をお願いします
- ②住所 大崎市古川宮沢字新田町34
- ③宮沢小学校です
- ④いつ
- ⑤どこで
- ⑥だれが(年, 氏名)
- ⑦どこを
- ⑧どうした
- ⑨電話番号(Tel.0229-28-1605)
- ⑩通報者氏名()

保護者へ連絡

〈学級担任・教務主任〉
・事故の状況説明
・搬送先の確認
(落ち合う場所の確認)
・保険証持参の依頼

緊急連絡先確認方法

- ①児童名簿(職員室・保健室)
- ②家庭環境調査票(校長室)

救急車誘導

教育委員会報告

〈校長・教頭〉
・事故の一報

救急車同乗

〈状況説明ができる人・養護教諭〉
・緊急連絡カード
(家庭環境調査票)
・保健個票

職員が搬送の場合

- ・タクシー使用を原則とする
- ・職員が医療機関へ搬送(付き添い)
☞かかりつけを優先
- ・緊急連絡カード(家庭環境調査票),
保健個票を持参

病院到着

・保護者へ説明

〈職員〉

・病院へかけつける

状況報告

〈校長・教頭・学級担任・事故発見者・養護教諭〉
・状況の整理をして今後の対応決定

家庭への対応

〈学級担任・他〉
・病院見舞い
・家庭訪問 家庭連絡

職員招集

〈校長〉
・事故の原因, 対応, 経過, 現在の
状況について確認
・今後の対応について

外部への対応

〈教頭〉
・児童・生徒、保護者
・報道機関

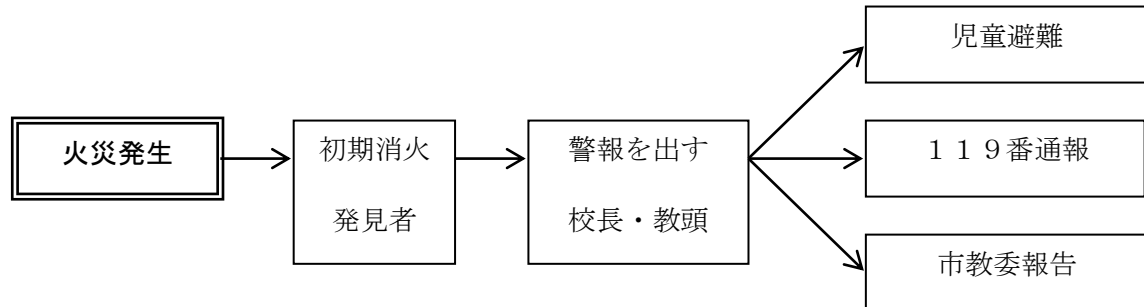
1 緊急事態発生時とその対応について

1 学校事故の種類

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ① 教育活動中（管理下） | 授業中（体育・理科・図工・クラブなど） |
| ② 非教育活動中（管理下） | 休み時間の事故・怪我等 |
| ③ 学校施設・設備・管理の瑕疵 | 建物の倒壊損傷・教材教具の不備・火災・プール等 |

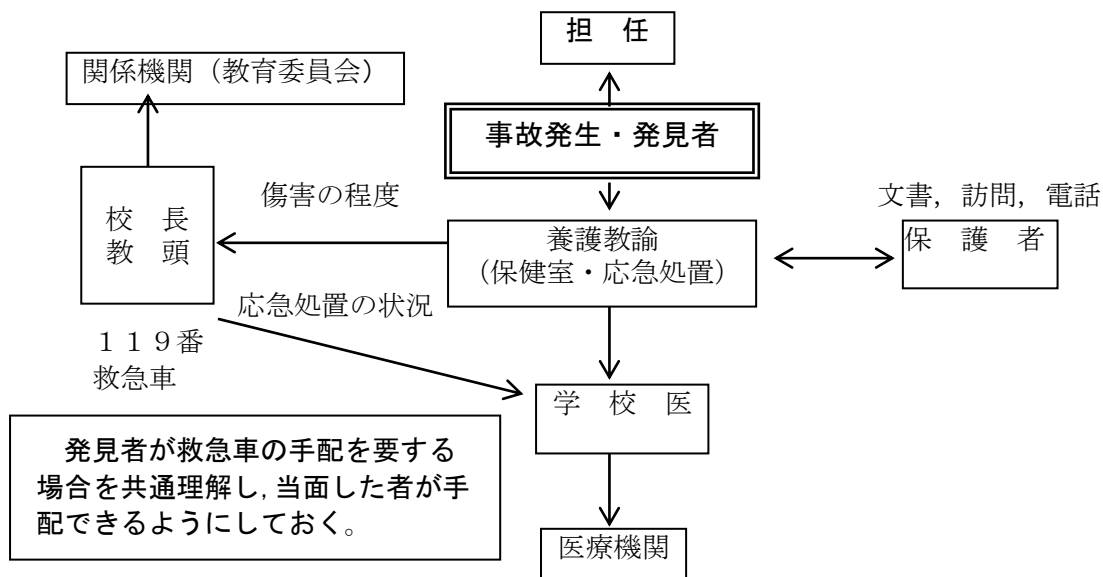
2 事故の処理について

(1) 火災・地震



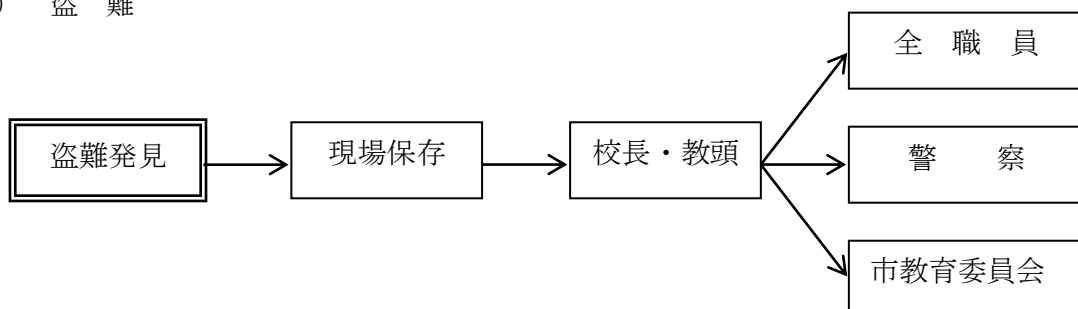
- ① 児童の人数確認後、けがや気分の悪くなった児童について治療を行う。
- ② 連絡終了後、発見時刻、連絡時刻、処理した事項、経過の概要を記録しておく。
- ③ 休日、夜間の対応、市域に震度5弱以上の地震が発生した場合は管理職に、また震度5強以上の時は全職員に対して動員が自動発令される。

(2) けが・骨折などの救急体制

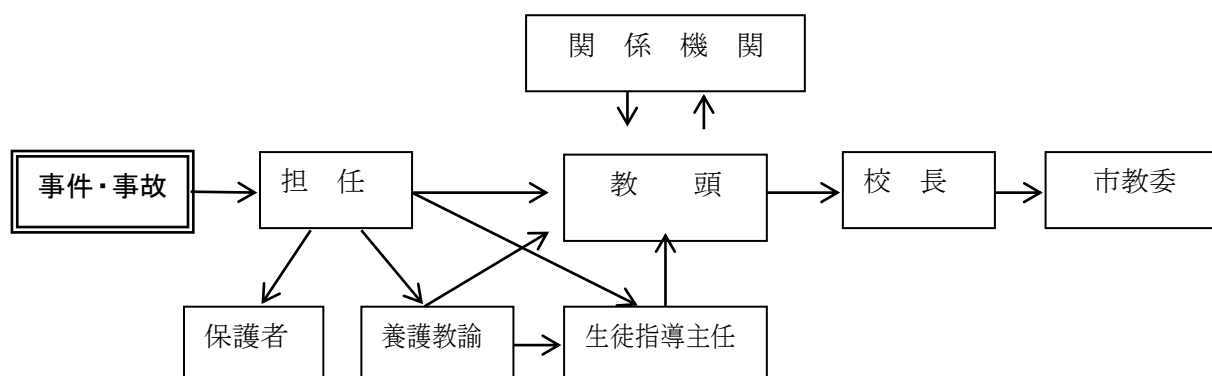


- ① 養護教諭不在の場合は、発見者（担任・担当職員）が応急処置をし校長・教頭に報告する。

(3) 盗難

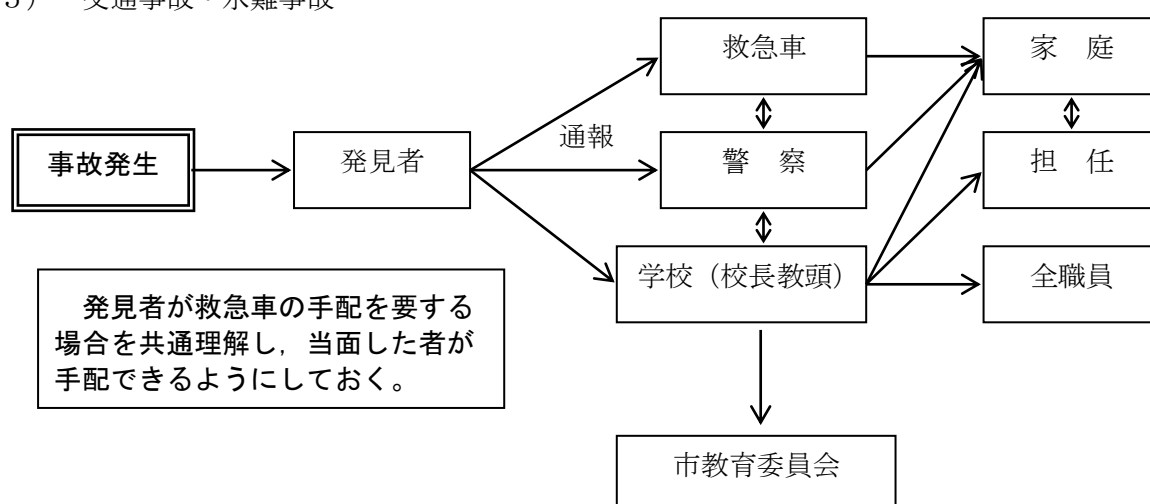


(4) 問題行動



- ① 事件・事故発生と同時に、発見者または担当者は速やかに関係者に連絡する。特に、校長・教頭、生徒指導主任に報告し、その判断・指示を得て対策を講じる。
- ② 事故報告に際しては、「いつ」「どこで」「だれが」「どうして」「どうなったか」また、「どう処置し」「現在はどうなっているか」を順序よく、速やかに報告する。
- ③ 事件・事故後における子どもたちの様子を観察し、指導していく。
- ④ 他機関との連絡の窓口は、校長または指示を受けた教頭が当たる。

(5) 交通事故・水難事故



- ① だれが、いつ、どこで、どんな事故が起きたか確かめる。
- ② なぜ事故が起きたか確かめる。
- ③ 校長、教頭、教務主任、養護教諭、担任にすぐに連絡をとる。
- ④ 万一児童がけがや生命に危険があるときは、治療や救命に最善をつくる。
- ⑤ 医院・病院については、家族と連絡をとり選ぶ。
- ⑥ 家族との連絡、事故災害に遭った児童への連絡は誠意を持ってあたる。
- ⑦ 事故については正確で確かな情報を伝え、外部関係機関との窓口は教頭に一本化する。

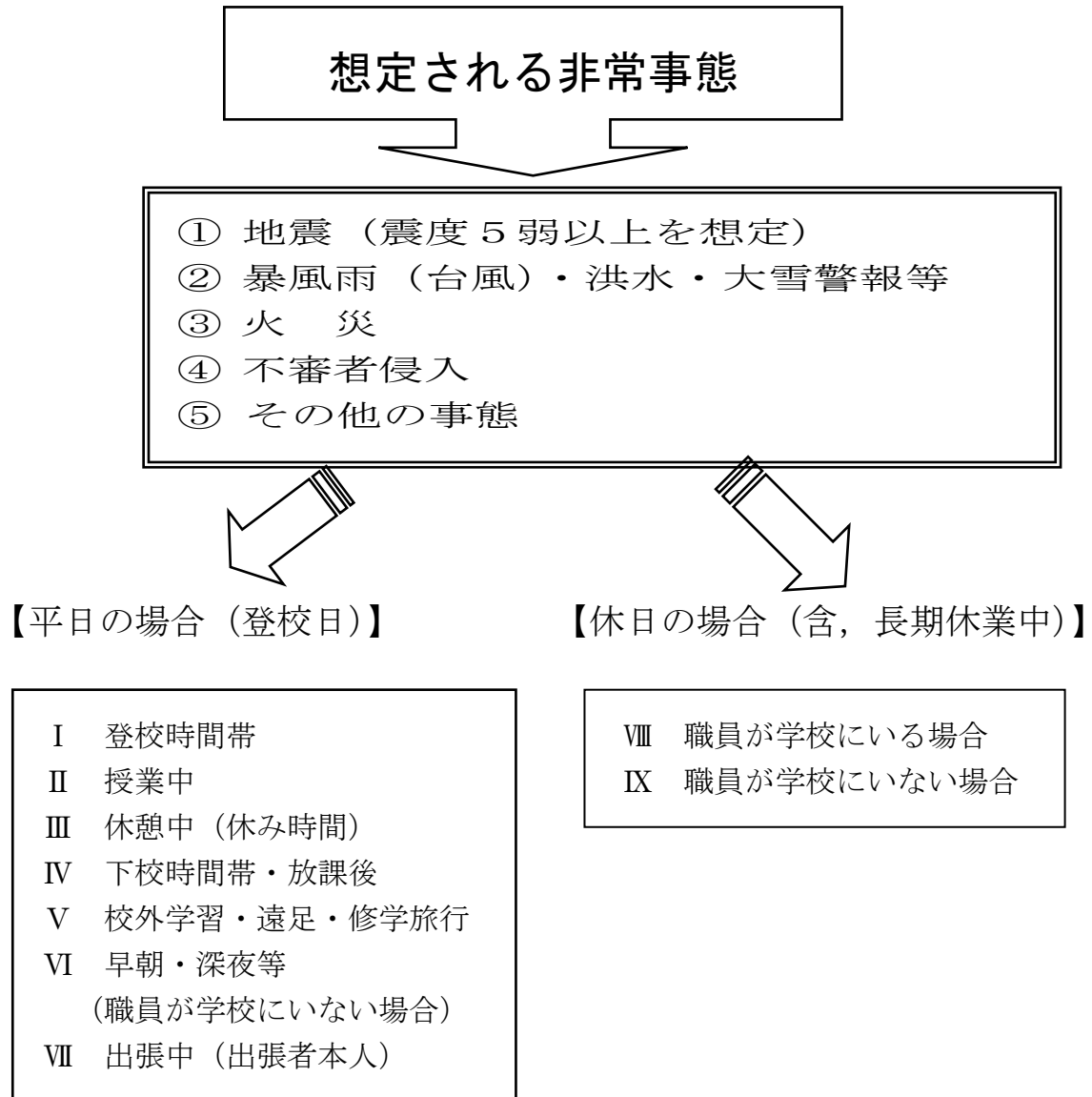
関係機関の連絡先

①市教育委員会	72-1211	②宮城県北部教育事務所	91-0701
③古川警察署	22-2311	④古川消防署	22-2351
⑤富樫内科医院	23-4456	⑥古川中央眼科	22-6111
⑦なおきクリニック	24-8241	⑧耳鼻科校医（市民病院）	23-3311

非常時対応マニュアル

いつ起きるか分からない災害・緊急事態等の非常事態に対して、職員がどのような行動をとれば良いのか、基本の行動として共通理解できるようにマニュアルを作成した。尚、このマニュアルは基本的な行動マニュアルであり、すべてマニュアル通りには行かない事や臨機応変に対応する必要がある場合は、校長を中心として統一された指示系統により行動する。

以下の場合を想定して作成した。

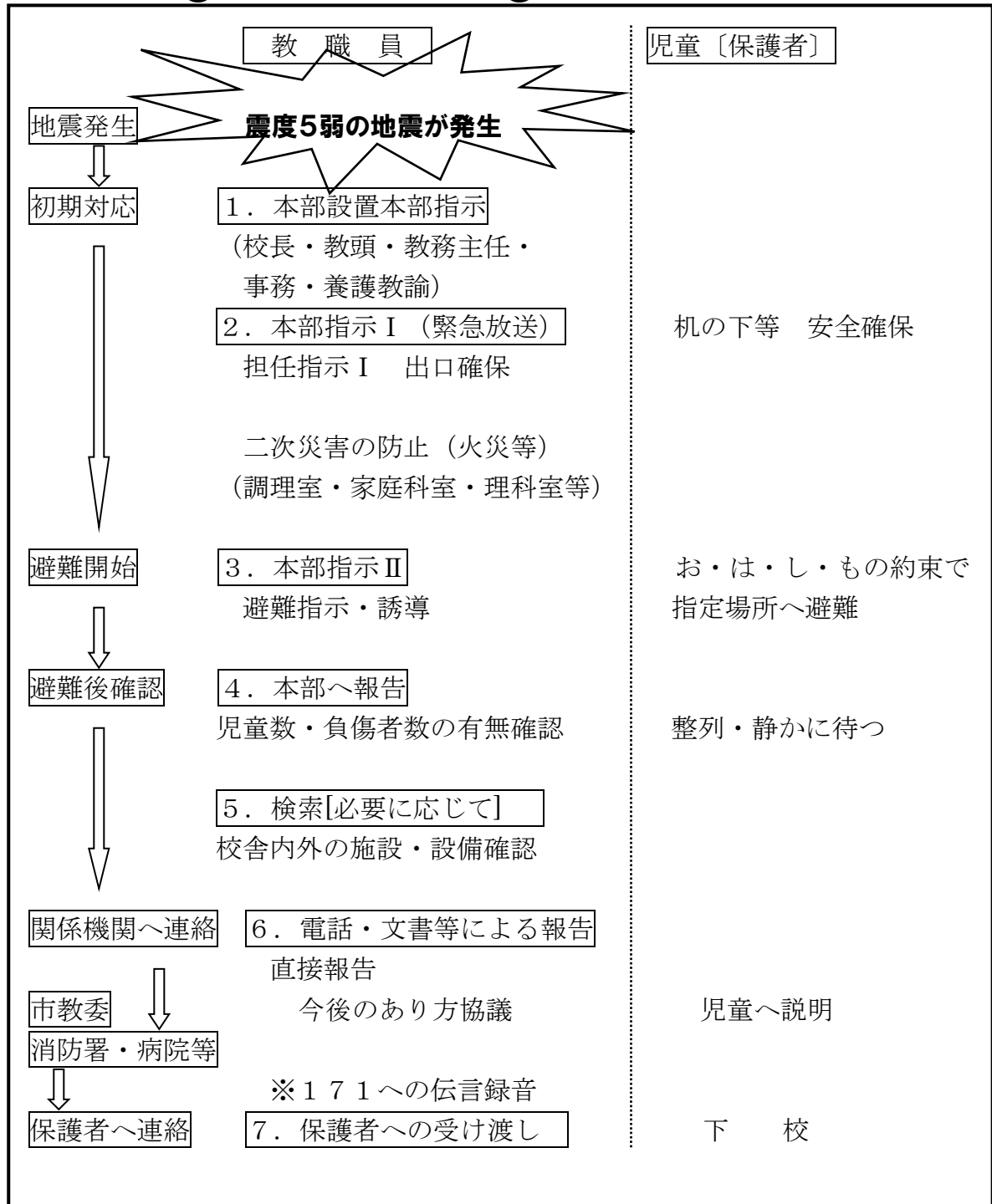


大地震発生時対策マニュアル

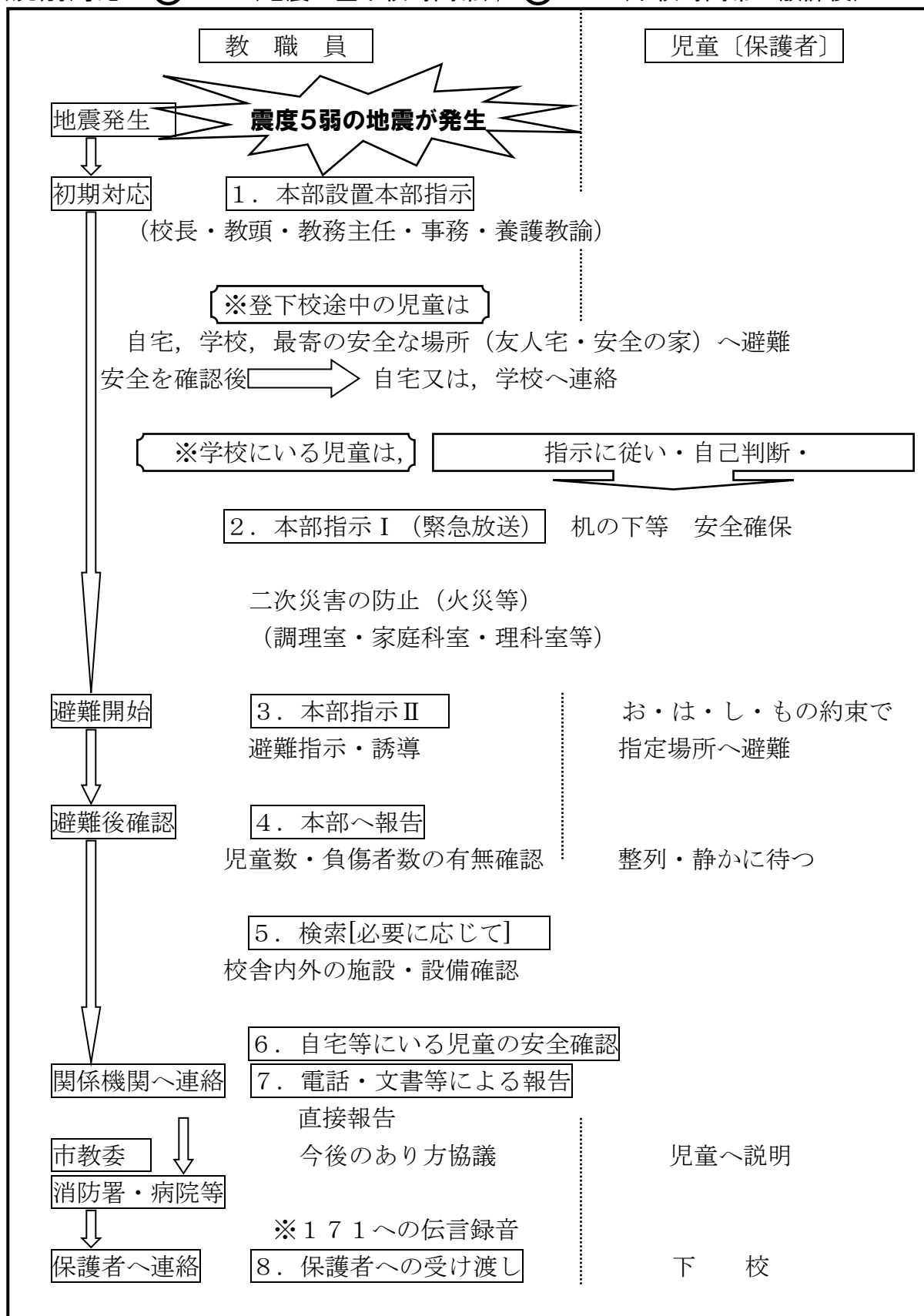
想定災害規模

震度 5 弱以上震度 7 までの、東日本大震災と同等の規模の地震が発生を想定

状況別対応 ①－Ⅱ（地震・授業中）、①－Ⅲ（地震・休憩中）



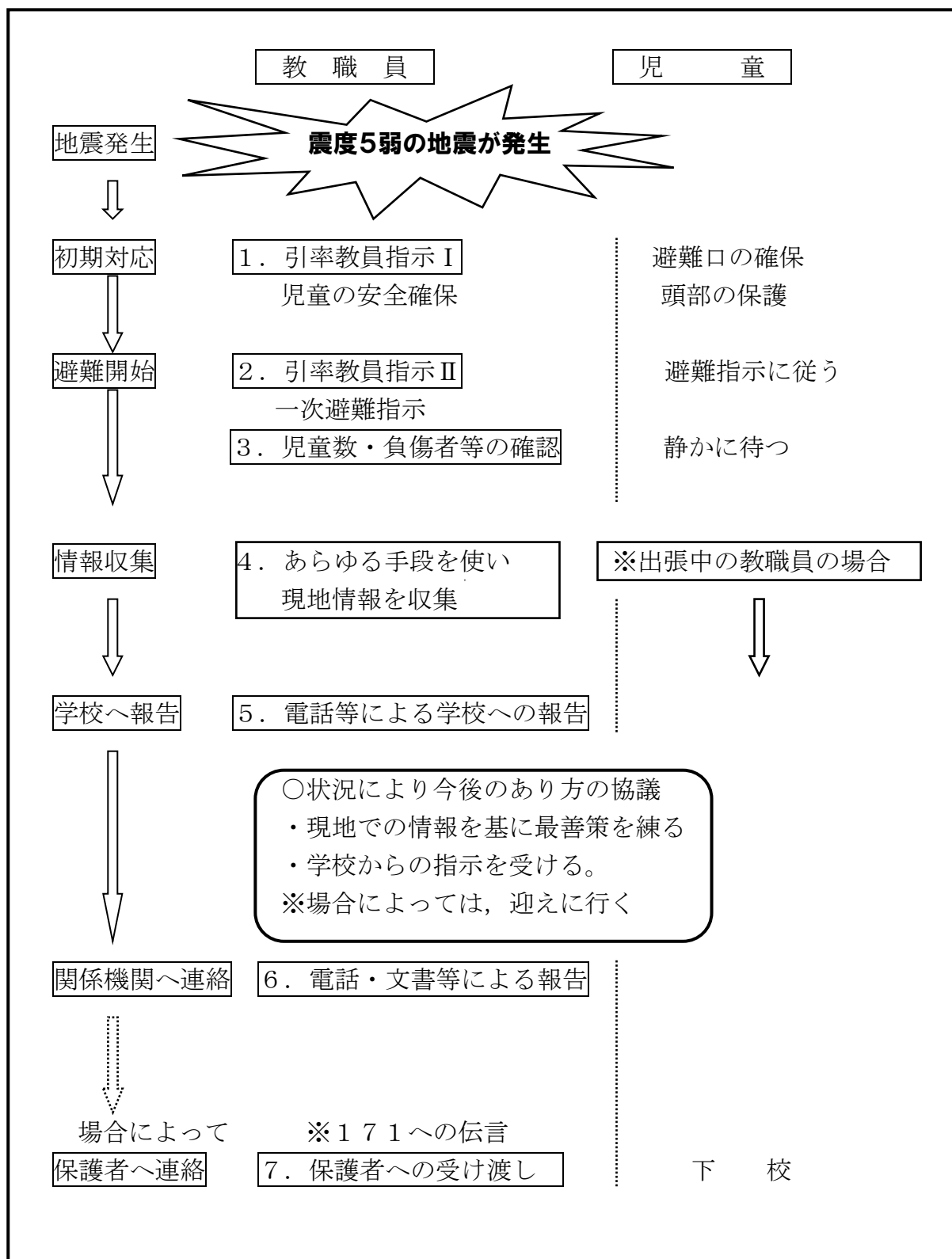
状況別対応 ①－Ⅰ（地震・登下校時間帯）、①－Ⅳ（下校時間帯・放課後）



状況別対応

①－Ⅴ (地震・校外学習・遠足・修学旅行中)

①－Ⅶ (地震・出張中 出張者本人)



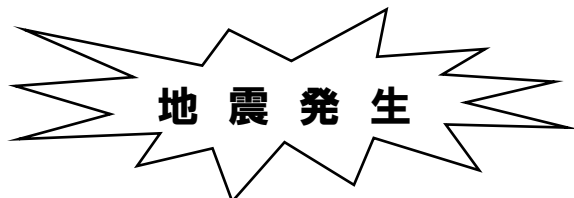
状況別対応

①－ VI 地震・早朝・深夜等（職員が学校にいない場合）

①－ IX 地震・職員が学校にいない場合

震度 5 弱 いずれかの管理職出勤

震度 5 強以上 全職員出勤



市警戒本部設置	震度 5 弱	(1 号配備)
災害対策本部	震度 5 強	(2 号配備)
	震度 6 弱以上	(3 号配備)

非常配備体制 5 強以上 (2 号配備) 全職員出勤・対応

教職員参集可否の判断 (自身・家族の被災状況等の安全確認)

参集可能

宮沢小学校へ

参集不可 (被災)
【自宅待機】

学校に連絡し指示を受ける

被災状況の把握・確認

⇒ 職員の安否確認

教育委員会への連絡

⇒ 電話等による報告

被災者救援第 3 班

⇒ ①～⑦に関する業務を行う

詳細は「大地震のときの対応」マニュアル参照

暴風雨・洪水・大雪警報等発生時対策マニュアル

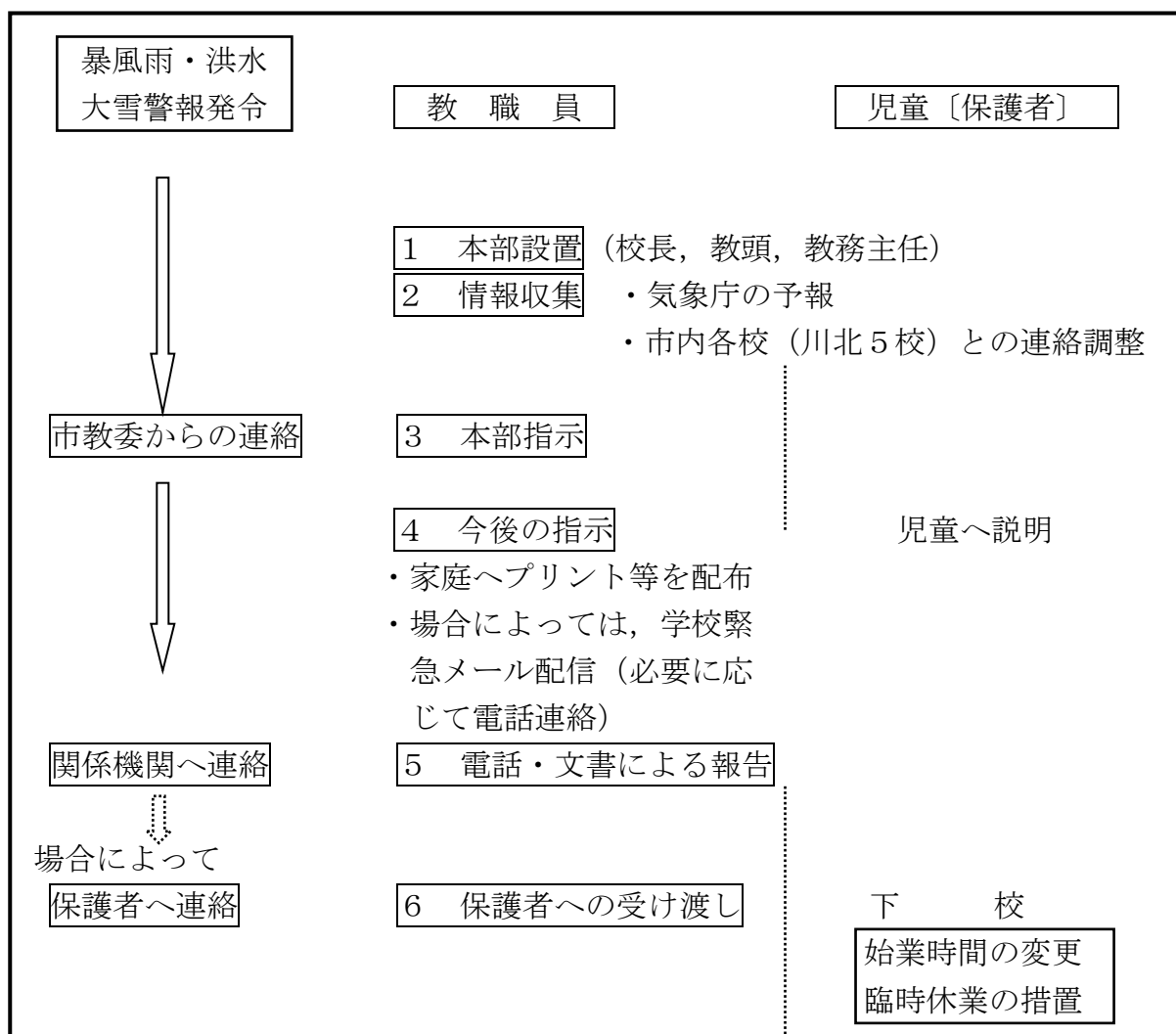
想定警報

今後、古川地域に暴風雨（台風）・大雪が予想され確実に警報が発令されそうな場合及び発令された場合。

状況別対応

②暴風雨（台風）・大雨洪水・大雪警報発令（平日の場合）

警報の場合は、天気予報等から十分な情報を得るなどの時間的なゆとりがあるので、十分な情報を得て判断する。



暴風雨（台風）・洪水・大雪警報発令（休日の場合）

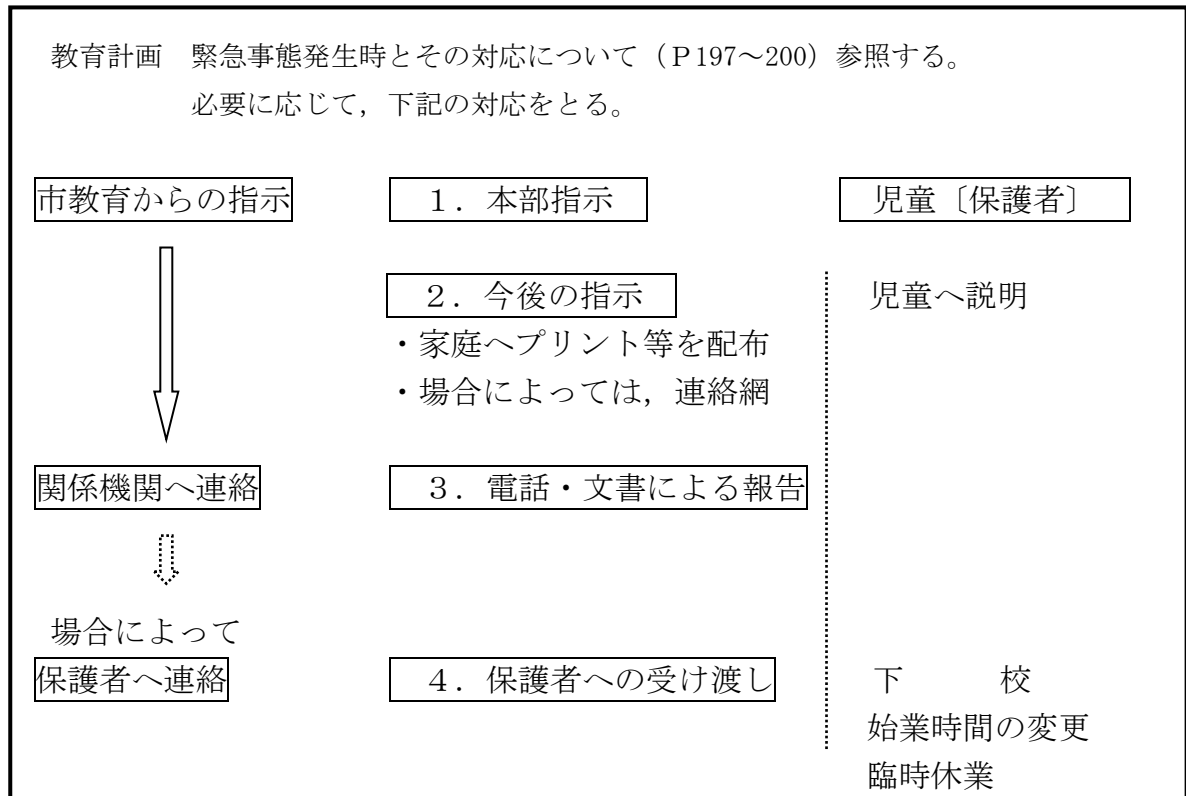
- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 本部設置
（校長，教頭，教務主任） | * 学校緊急メール配信
（必要に応じて電話連絡） |
| 2 本部指示
連絡網で全職員へ指示 | |
| 以後、地震時に準じて適宜対応。 | |

火災発生・不審者侵入時における対策マニュアル

想定災害規模

火災が発生 不審者の侵入 その他の緊急事態

状況別対応 ③ 火災が発生 ④不審者の侵入 ⑤その他の事態



災害時の連絡方法について

◎学校の電話は災害時優先電話ですので、学校からは優先的に使用できます。

0229-28-1605

◎それ以外の通信手段は、災害時は使用できなくなる可能性が高い。

◎学校の優先電話も使用できない場合は、職員が手分けして、地区を担当し連絡する。

各家庭に連絡が取れない場合は

① N T T 災害伝言ダイヤルの活用

災害用伝言ダイヤル

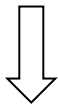
電話が使用できない場合は、N T T の災害用伝言ダイヤルを用いる。
伝言登録、再生の利用可能な電話は、一般電話、公衆電話、などです。

学校では、児童の様子や今後の対応について、伝言を入れておきますので、
伝言ダイヤルを利用してください。それをお聞きになってから行動してください。

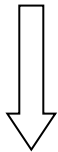
通話の仕方

1 7 1

をダイヤルする



ガイダンスに従い



再生 1

学校の電話番号 0 2 2 9 - 2 8 - 1 6 0 5 を押す。

※ダイヤル式とプッシュ式では異なるので、ガイダンスにしたがって操作する。

② 直接訪問

保護者への受け渡しも連絡がつかない場合などは、一次的に児童を預かる。

その後も連絡がつかない場合は、各方面に職員が手分けして送り届ける。

③ その他

保護者には、災害時における対応についてのお知らせを配布する。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応

◇可能な限り多くの避難所の開設

- ・あらかじめ指定した避難所以外に，通常の災害発生時よりも可能な限り，多くの避難所の開設を図る。

◇親戚や友人の家等への避難の検討

- ・過密状態を防ぐため，可能な場合は親戚や友人等への避難を検討していただく。

◇避難者の健康状態の確認

- ・避難所への到着時に市の職員が健康状態の確認を行う。
- ・避難生活開始後も，定期的に健康状態について確認する。

◇手洗い，咳エチケット等の基本的な対策の徹底

- ・避難者や避難所運営スタッフは，頻繁に手洗いするとともに，咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底すること。

◇避難所の衛生環境の確保

- ・定期的に家庭用洗剤を用いて清掃するなど，避難所の衛生環境をできる限り整える。

◇十分な換気の実施，スペースの確保

- ・避難所内は十分な換気に努めるとともに，避難者が十分なスペースを確保できるよう留意すること。

◇発熱，咳等の症状が出た物のための専用のスペースの確保

- ・スペースは可能な限り個室にするとともに，専用のトイレを確保することが望ましい。やむを得ず同室にする場合は，パーテーションで区切るなどの工夫をすること。
- ・症状が出た者の専用のスペースやトイレは，一般の避難者とはゾーン，導線を分けること。

避難訓練実施計画

《地震、火災、水害、竜巻・Jアラート等想定》

1 ねらい

- 非常事態における生命の保持や避難の方法を知り、的確に行動できるようにする。
- 災害に対する知識・理解を深め、生命の大切さに気づくことができるようにする。

2 実施日時

- 業間や昼休み、または行事の練習時に短時間（ショート）で行う。

- ① 4月15日（水）：地震想定
- ② 5月11日（月）：不審者想定
- ③ 6月17日（水）：引渡訓練と兼ねる
- ④ 7月14日（火）：竜巻・Jアラート想定
- ⑤ 7月20日（月）：集団下校時（危険箇所確認）
- ⑥ 8月27日（木）：水害想定
- ⑦ 9月15日（火）：地震想定
- ⑧ 10月28日（水）：学芸会練習時（地震想定）
- ⑨ 11月19日（木）：火災想定
- ⑩ 12月23日（水）：集団下校時（危険箇所確認）
- ⑪ 1月14日（木）：地震想定
- ⑫ 2月12日（金）：引渡を想定し、地区ごとに並ぶ訓練
- ⑬ 3月11日（木）：臨時集会（みやぎ鎮魂の日）
- ⑭ 同日：卒業式練習時（地震想定）

3 想定：例

【地震想定】

午前10時18分、強度の地震発生、発生時に各学級担任の指示により全員机の下に第1次避難を行う。その後放送または拡声器での指示により、児童の安全確保のため避難場所へ敏速なる避難を行う。

【火災想定】

給食室から出火、煙が校舎内に充満し延焼の恐れあり、放送の指示により児童の安全確保のため避難場所へ敏速なる避難を行う。

【水害想定】

江合川の堤防が決壊の恐れがあり、学校周辺まで水が流れてくる危険性があるため、児童の安全確保のため避難場所へ敏速なる避難を行う。

【竜巻・Jアラート想定】

大崎市北部地区に竜巻警報発生、または日本に向けてミサイルが発射されたことで、児童の安全確保のため避難場所へ敏速なる避難を行う。

4 訓練にあたって

- ・ 事前指導を十分に行い、避難訓練の意義や行動の順序について理解させる。
- ・ 通報、指示の聞き方、避難の仕方など避難訓練参加の心得と内容について知らせる。
- ・ 避難経路、避難場所を周知徹底する。
- ・ 避難に際しては生命の安全を第一とする。
- ・ 避難するとき「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」を徹底させる。

5 実施上の留意点

- (1) 心身に障害のある児童をよく把握し、特段の配慮をすること。
- (2) 危険が予想される箇所を事前に把握し、適切な指導・誘導をする。
- (3) 1年担任、ベルに過敏な児童の担任には当日朝に実施を知らせておく。
- (4) 訓練前、事前にセコム・大崎防災に連絡しておく。

6 訓練の流れ
(地震想定：例)

時間・主な内容	児童の動き	係・その他
<p>■事前指導</p> <p>10:18</p> <p>□地震発生</p> <p>10:18</p> <p>■避難通報①</p>	<p>□地震の際の避難の仕方を確認する。</p> <p>□避難経路について知る。</p> <p>□避難時の約束「お・は・し・も」について理解する。</p> <p>□拡声器で地震発生を知らせる音を出す。(教務)</p>	<p>お：押さない は：走らない し：しゃべらない も：戻らない</p> <p>◆避難を大声で呼びかける。 ・停電により放送は使えないものとする。(教頭)</p>
<p>「訓練，地震発生。訓練，地震発生。ただいま強い地震がありました。児童の皆さんは机の下のもぐったまま，次の指示を待ちなさい。(教頭)</p>		
<p>◇落ちてこない 倒れない 移動してこない場所 で身を守る。</p> <p>10:20</p> <p>■指示(校長)：児童に通報することの指示を出す。</p> <p>■避難通報②</p>	<p>□体育館・校庭にいたとき→中央</p> <p>□廊下・トイレにいたとき →近くの教室の机の下</p>	<p>・教室のドアを開け，出口を確保する。(担任)</p>
<p>「地震は収まりました。児童の皆さんは担任の先生の指示に従って，落ち着いて避難しなさい。(教頭：拡声器)</p>		
<p>◇通報を聞き，指示に従って避難する。</p> <p>10:24</p> <p>■全体指導</p> <p>・校長先生の話 ・連絡(防災主任)</p> <p>10:30</p> <p>■教室へ移動</p> <p>■事後指導</p>	<p>「避難します。赤白帽子をかぶって，外に出なさい。」</p> <p>□「お・は・し・も」の約束を守り，指示に従って避難する。</p> <p>□最後の学年の最後尾が1階の教室の校庭側ドアを閉める。</p> <p>◇第一避難場所：校庭ブランコ前</p> <p>□学級ごと2列縦隊。座って待つ。</p> <p>□靴底をきれいにして校舎に入る。</p> <p>□避難の仕方について反省する。</p>	<p>・通報を聞いた後，避難誘導をする。</p> <p>◆引き渡し名簿携行(担任)</p> <p>◆出席簿携行(担任) ・可能な限り</p> <p>◆人数，けが等の確認</p> <p>◆避難完了後報告 「学年・在籍・異常の有無」 担任→校長</p> <p>◆避難時間の報告「避難しなさい」～報告終了まで(教頭)</p> <p>*本部旗(養護教諭)</p>

(火災想定：例)

時間・主な内容	児童の動き	係・その他
■事前指導 (朝の会等)	<input type="checkbox"/> 火災の際の避難の仕方を確認する。 <input type="checkbox"/> 避難経路について知る。 <input type="checkbox"/> 避難時の約束「お・は・し・も」について理解する。	お：押さない は：走らない し：しゃべらない も：戻らない *ハンカチ等で口を押さえる
10:19 <input type="checkbox"/> 火災発生 <input type="checkbox"/> 非常ベル 10:20 ■避難通報①	業間時間であるが、教室で待機する	・非常ベル（事務）
「訓練，火災発生。訓練，火災発生。1階給食室付近から火災が発生しました。児童のみなさんは担任の指示に従って校庭に避難しなさい。（教頭）」		
■避難する 10:23 ■全体指導 ・校長先生の話 ・連絡(防災主任)	<input type="checkbox"/> 1～3年生は、教室後方→テラス→校庭（上靴のまま） <input type="checkbox"/> 4～5年生，東階段→1年教室→校庭（上靴のまま） ※最後尾の学年が，1年教室の校庭側扉を閉める ※西階段は使用しない。	・教室の出入り口扉を開け，出口を確保する。（担任） ・通報を聞いた後，避難誘導をする。 ◆出席簿携行（担任） ・可能な限り ◆人数，けが等の確認 ◆避難完了後報告 「学年・在籍・異常の有無」 担任→校長 ◆避難時間の報告「避難しなさい」～報告終了まで （教頭） *本部旗(養護教諭)
10:30 ■教室へ移動 ■事後指導 (帰りの会等)	<input type="checkbox"/> 靴底をきれいにして校舎に入る。 <input type="checkbox"/> 避難の仕方について反省する。	

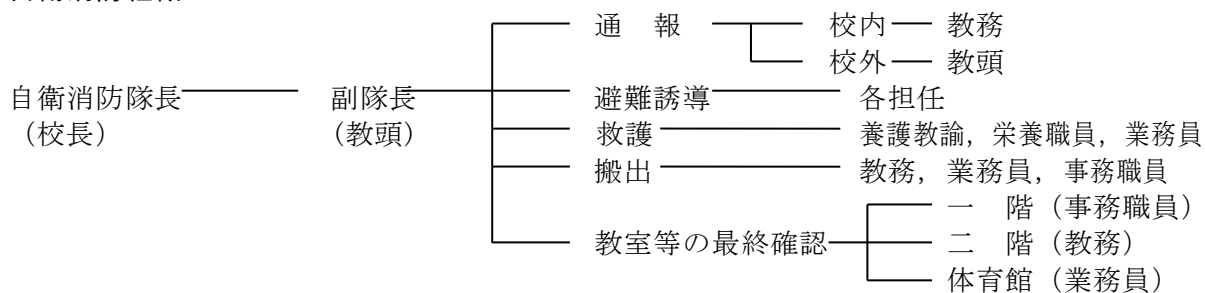
(竜巻・Jアラート想定：例)

時間・主な内容	児童の動き	係・その他
10:20 ■業間運動	□校庭でランニングを開始する。	
10:22 ■避難通報①	*ランニングの途中で放送する。	
「訓練，訓練。竜巻が近付いています。今すぐ家庭科室前の廊下に避難しなさい。」(繰り返し)：教頭		
■避難通報②	□校舎内に入り，家庭科室前廊下に避難する。 □整列 (体育館通路扉側：6年→1年) ※避難場所の家庭科室前廊下は，両側に窓が無いために設定。	担任：昇降口付近～家庭科室誘導 防災主任：家庭科室前整列指示 教務：校舎内検索 業務員：校庭検索 <div> 報告 担任→校長（校長室前） 「学年・在籍・異常の有無」 </div>
「全員の避難が完了しました。校長先生からお話があります。ホールに移動しましょう。」：防災主任		
10:27 ■全体指導 ・校長先生のお話 ・連絡（防災主任）	□避難の様子について，お話を聞く。	
■事後指導 (帰りの会)	□帰りの会で，避難訓練について担任の話を聞く。	担任：反省点を指導する。

(不審者対応：例)

時間・主な内容	児童の動き	係・その他
10:15 ■不審者発見 10:20 ■避難通報①	※業間時間であるが，教室で待機する。 □ 3年担任が不審者を発見し，2年→1年に伝えながら，職員室に知らせる。〈1・2年は窓と扉の施錠とカーテンを閉める。〉 □ 連絡を受けた職員（教務）は校長・教頭に内容を伝える。 □指示を静かに聞く。（教頭）	・ 1～3年担任は廊下側の窓に目隠しをする。（模造紙等を貼る）
急な荷物が届きました。荷物は昇降口にあります。各教室で安全に過ごしてください。（繰り返し）		
10:24 ■避難通報②	□静かに待機する。 □4～6年廊下側扉を施錠する	・ 職員室にいる職員はネットランチャー，さすまたを持って昇降口に急行する。
荷物は片付けました。もう大丈夫です。（繰り返し） ・ 校長先生からお話があります。ホールに移動しましょう。		
10:25 ■全体指導 ・ 校長先生の話 ・ 連絡（防災主任）	□避難の仕方について反省する。	◆ホール移動後，報告 「学年・在籍・異常の有無」 担任→校長

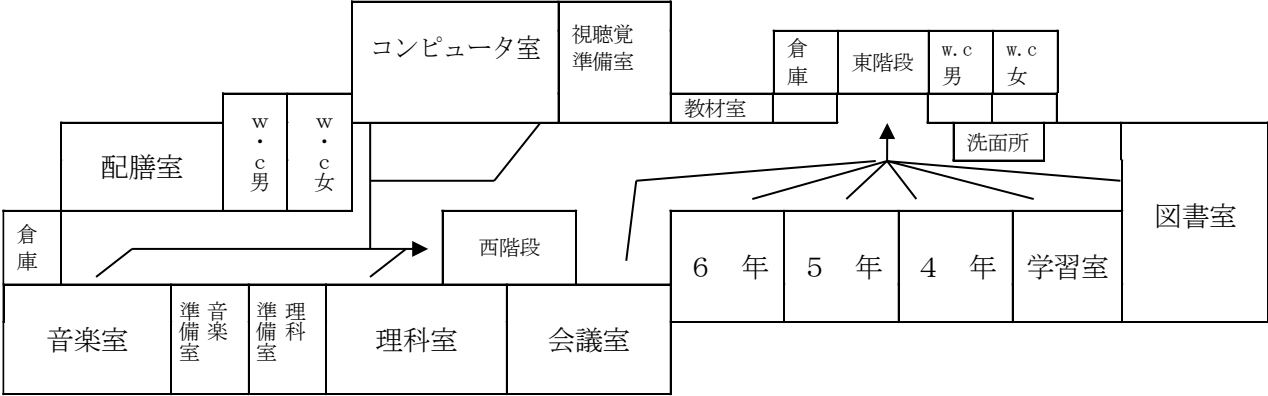
7 自衛消防組織



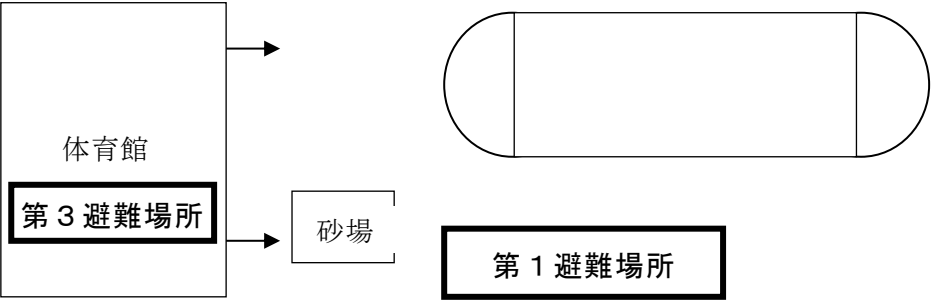
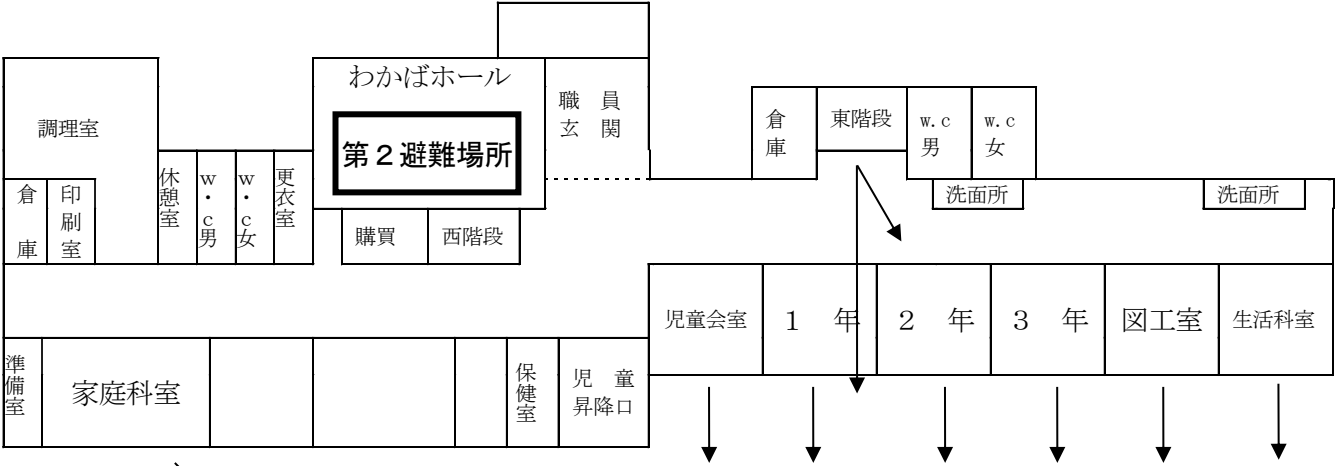
8 避難経路図

宮沢小学校校舎平面図

2 階平面図



1 階平面図

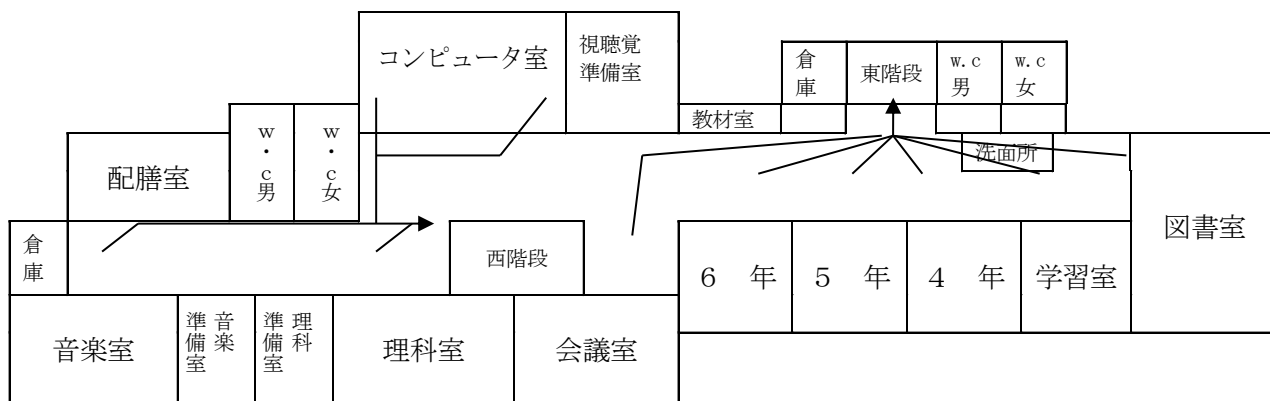


9 反省と評価

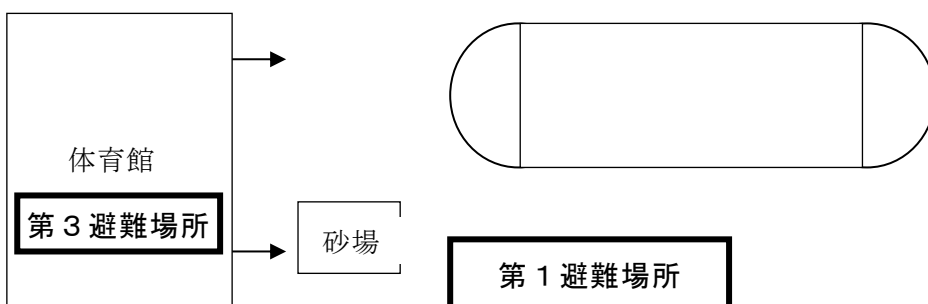
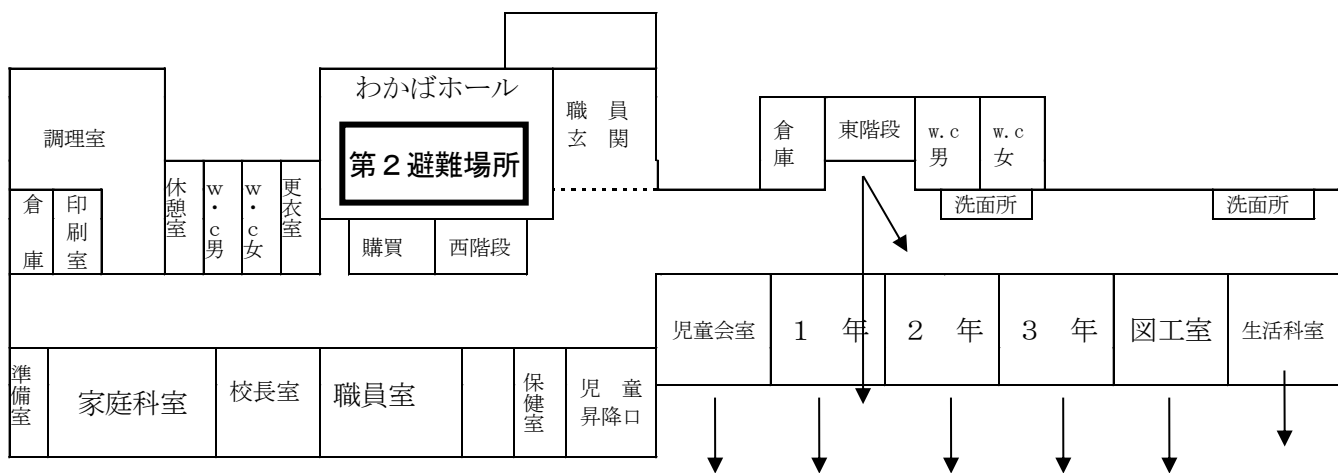
避難経路図（地震・火災想定）

宮沢小学校校舎平面図

2 階平面図



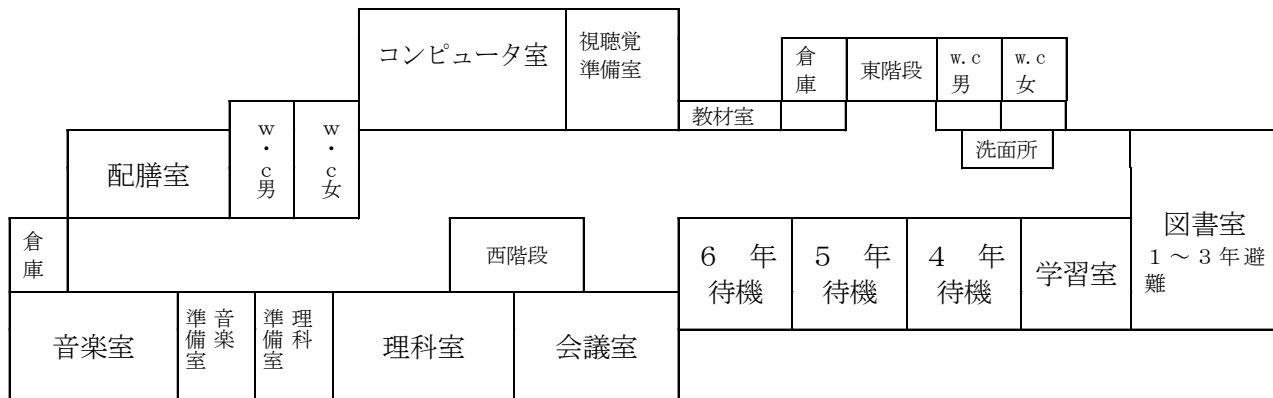
1 階平面図



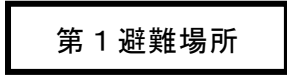
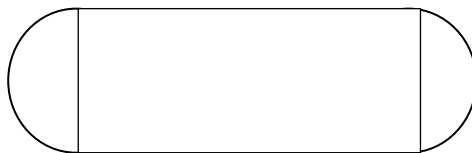
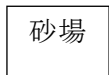
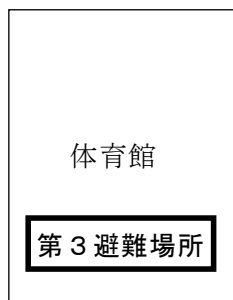
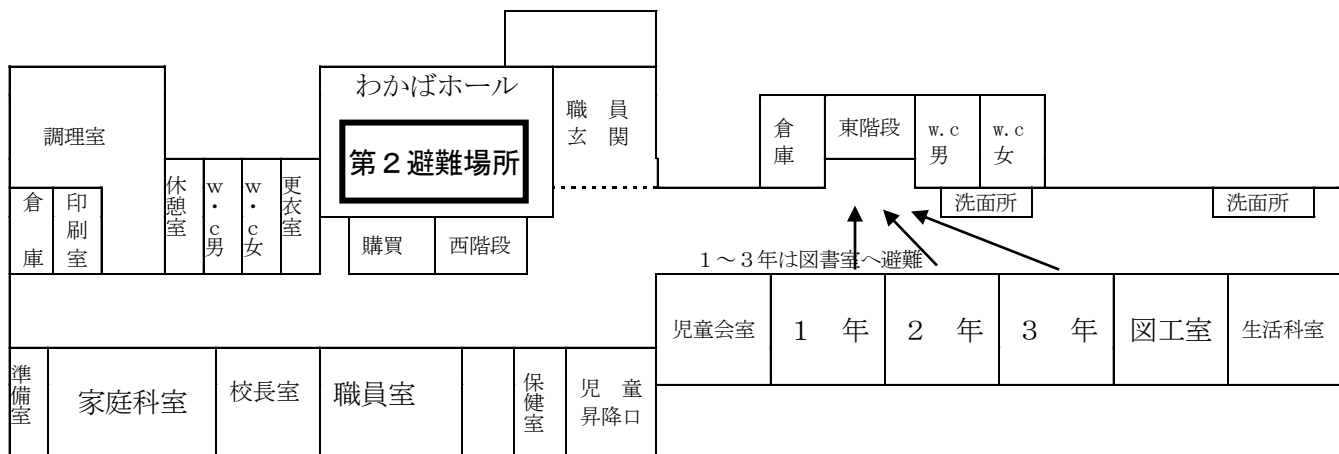
避難経路図（風水害想定）

宮沢小学校校舎平面図

2 階平面図



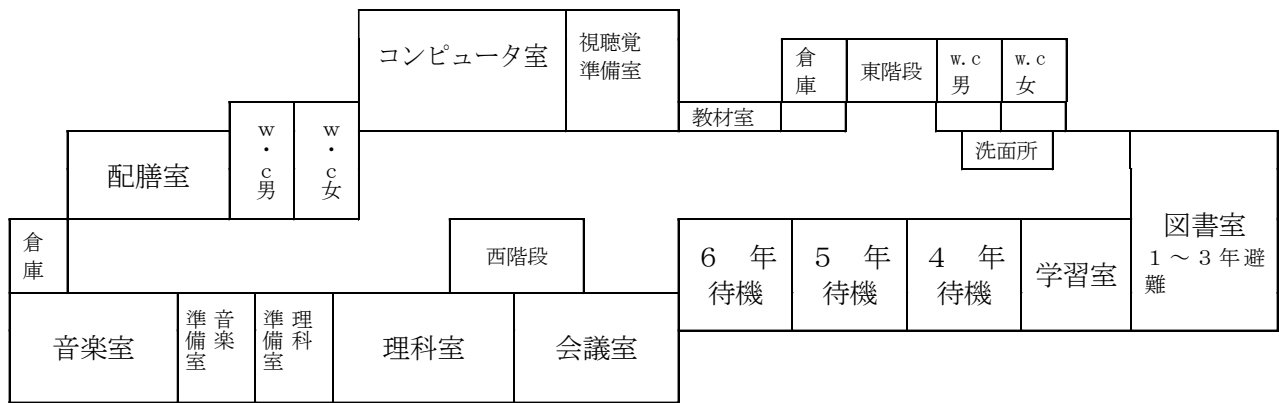
1 階平面図



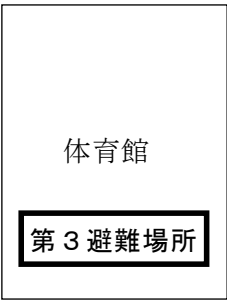
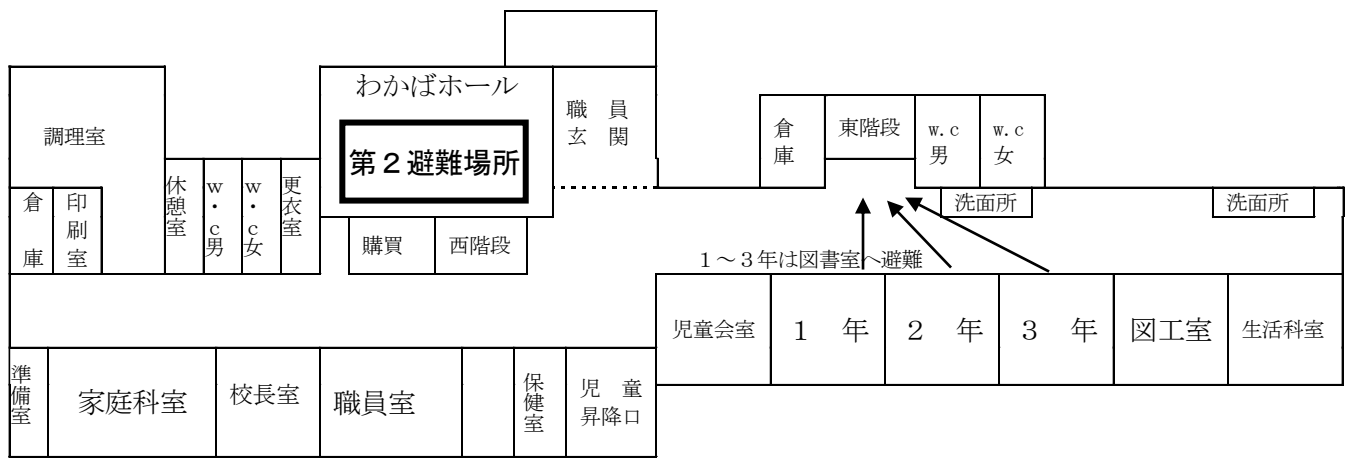
避難経路図（不審者想定）

宮沢小学校校舎平面図

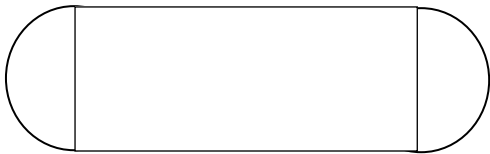
2 階平面図



1 階平面図



砂場

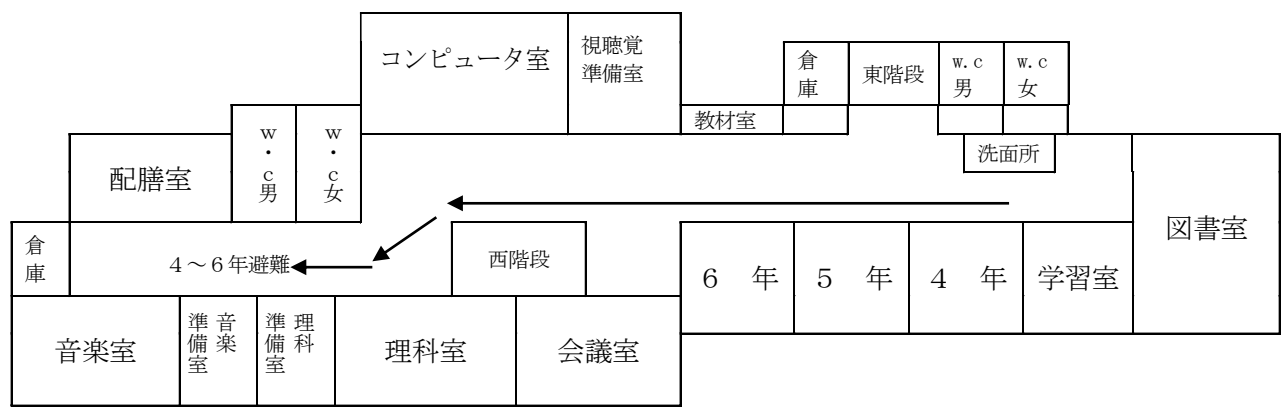


第 1 避難場所

避難経路図（竜巻・ミサイル想定）

宮沢小学校校舎平面図

2 階平面図



1 階平面図

